

埼玉アートシアター 通信

SAITAMA ARTS THEATER PRESS



(財)埼玉県芸術文化振興財団

6

2006.11-12

2006.11-12 S A I T A M A A R T S T H E A T E R P R E S S



蜷川幸雄公開対談 NINAGAWA 千の目

写真家

(財)埼玉県芸術文化振興財団
芸術監督・演出家

蜷川実花 × 蜷川幸雄





（財）埼玉県芸術文化振興財団 芸術監督・演出家

幸雄

蜷川実花

YUKIO NINAGAWA MIKA NINAGAWA

公開対談シリーズ 第5回

NINAGAWA 千の目

「NINAGAWA 千の目」の5回目のゲスト 写真家の蜷川実花さんは初めての女性ゲストであると共に、周知のとおり 蜷川幸雄の長女。今まで親子対談の企画は数々あったものの「はずかしくて（蜷川幸雄）ほとんど実現せず、公開では本邦初の顔合わせとなった。

初めての長編映画『さくらん』を監督し、来年2月に公開を控える実花さんに対し『青い炎』や『囁く伊右衛門』などで映画監督としても一日の長がある蜷川幸雄はどう出るか。シャイな親子の「緩衝地帯」として、映画や演劇、ダンスのライター、佐藤友紀さんを進行役に迎え、注目の対談は始まった。

写真家

色彩感覚も、カット割りも、映像は俺よりずっといい

佐藤（以下S）「千の目」第5回のゲストはフォトグラファーで、今度は映画監督をなさいます蜷川実花さんです。そして芸術監督の蜷川幸雄さんです（2人、登場）

実花さんはもともと写真を撮りながら、どこかでは動く映画をいずれかは撮りたかったのですか。

蜷川実花（以下MN） 私は映画を撮りたいというのは全然なかったのです。写真より映画の方がすごいとも思っていないし、写真は表現する事はやればやるほど深くなるのです。ですが、映画会社の方から「何かやりたい原作があったら一緒にやりませんか」と言われて、1、2年かけて、これだったら私の力を出せる所があるかも知れないと思ったのが、今回の『さくらん』です。普段だったら、いろいろな撮影とか取材を受けたり、家に帰って話したり、スタッフとかに話したりする時に、いろいろな蜷川実花を使っているつもりですが、全部の蜷川実花が全員集合して、しかも120パーセントの全力投球でやってもやっても足りないかというぐらい監督って大変なんだという事がすごく面白かったです。

S では、記者会見の様子と、これも本邦初公開の撮影風景を収めたビデオを、特別に見せて頂くことにいたしましょう。

（ビデオ上映）

蜷川幸雄（以下N） おお、俺よりいいなあ。

MN まだ出せるのはこれだけなんです（拍手）

S 実花さんの映像は、写真でも本当に蜷川実花しか出せないピンクの色とか、先ほどの映画の色も吉原の雰囲気も、綺麗というか、華麗な色に集約されそうで楽しみなのです。

N そうですよね。インターネットでやった映像の作品を見ても色彩感覚が違います。僕よりもはるかにポップで、カット割りも細かいし「ええ、ここへ飛ぶのか」と、僕の世代と明らかに違う。それはわりと客観的だと思います。映像は僕より確かにいいです。編集もカット割りのタイミングも早いし、俺の方がちょっと遅いかな。

S ジム・ジャームッシュ監督なんかはオレンジ色が大嫌いなのですが、嫌いな色ってありますか。

N 僕はオレンジはやだなあ。僕の舞台にオレンジが出てきたことはほとんどないと思う。

MN 私は茶色が嫌い。時代劇は一般的には生地色の家具がいっぱいあるので、それは絶対にイヤだといって全部黒にしたので『さくらん』には生地色、いわゆる茶のタンスとか、柱とかは一本も出てこないのです。わりと浮世絵をベースに主に春画から、す



左から蜷川幸雄、進行役の佐藤友紀さん、蜷川実花さん。

ごくハデなタイプの春画から引張ってきたのです『さくらん』の舞台の江戸時代に誰も生きていたわけがないので、浮世絵だったりとかの文献を見て誰かがイメージし、それをまた見て、というその間が一切いらんと思ひ、浮世絵と私のフィルターを通して、アウトプットできたらそれでいいというルールにしました。

S ところで、蜷川家で育つということについて、何万回質問されたと思いますが、「うちのお父ちゃん、何かスペシャルな事をしているみたい」と感じたのはいつ頃でしたか。

MN 本当に小さい頃から四谷シモンさんの人形が（家に）あったりとかで、「この人形はなんでパンツを履いていないのかな」と思ったり、でもこれも可愛いし、ロポコンも、リカちゃんも好きだし、横尾忠則のおじさんの絵も好きだし、このぬりえも好きというように、すごくフラットでした。それが特別な事というのではなくて、ごっちゃになっていただけ、それはすごく良かったのだと思います。特別な人なんだと思った記憶はないですが、ただドラマを見ても私は未だにテレビとか、映画とか、ドラマを一視聴者として見られないのは、父と母のせいだと思っています。見てみると「何だ

よ、カメラ寄りすぎだよ」とか「顔だけで芝居しやがって」とか「本当に下手ねえ」とか「小さい時からそういう家庭に育ってました」「食べ物食べている口元を写すな」とかはすごく言っていました。S 「食べ物食べている口を写すな」で思い出しましたが、北野武監督が食べるシーンを自分で撮るのはとても苦手だそうですが、映画監督のお二

人はそういうのはありますか。セックスを撮るよりも食べるシーンを撮る方が難しいとか。

N 僕の『青の炎』で鈴木杏さんが二宮（和也）くんの妹の役でしたが、そういう兄弟が二人でいる部屋は撮れないですね。僕はホームドラマみたいなのはダメなんです。そういうシーンを撮るのがはずかしいのだと思います。ホームドラマみたいにご飯を食べている所とかは撮りたくないですね。「イヤだなあ」といながら撮っているのがカット割りもよくないし、そういう所も下手です。

MN 私が監督した作品の中で、吉原から足抜けをするシーンがあって、ある意味では映画で重要な所でもあるので一応撮りましたが全部カットしました。説明的な事とかはすごく飛ばしたくなるのです。

得意だったのは、ラブシーンが得意でした。すごくしつこいのですよ（笑い）。特に男の人に対してうさくて「もっとこうして欲しい」とか「女だったらこうして欲しい」とかをすごくこだわっていたみたいで、椎名桔平さんにまで「手はこうして下さい。こうでなくて、こうです」とか。

蜷川実花として認識してもらおうと、 5歳ぐらいから焦っていたのがよかった。



蜷川実花 Mika Ninagawa

1972年東京生まれ 多摩美術大学グラフィックデザイン科卒業 『第9回写真3.3m展』グループリ(96年) 『第13回キヤノン写真新世界』優秀賞(96年) 『第9回コニカ写真奨励賞(98年)』 『第26回木村伊兵衛写真賞(01年)』 『大原美術館賞(06年)』 など数々の賞を受賞 主な写真集に『Acid Bloom』(03年) 『Liquid Dreams』(03年) 『mika』(04年) 『floating yesterday』(05年) など。現在は様々なファッション誌やCDジャケット、広告を中心に、写真集や展覧会での作品発表で活躍中。初の長編監督映画『さくらん』が来年2月公開予定。写真集『永遠の花』(小学館)発売中。トキヨーワンダーサイト 渋谷(開催中～11月26日) 小山登美夫ギャラリー(11月17日～12月9日)にて個展同時開催 <http://ninamika.com>(PC) <http://ninamika-m.com>(モバイル)

N 俺はないなあ、はずかしくて僕はラブシーンはカメラを引いてワンカットで撮ってしまいます。

S 実花さんは今回が演技をつけるのは初めてで、それを自分が出来てしまうというのは、門前の小僧なのでしょか。

MN やる前は本当に出来るか一番不安な所でしたが、みんなにはすごく出来ていたと言われました。出来ていたとしたら何でかなと思いましたが、例えばすごくおいしいご飯を毎日小さい頃から食べていた子だとして、トマトの本当の味はこれだ、塩はこれとこれは違う、お醤油だったらこれがある、それを組み合わせるとこうなるという経験値があつて大人になつたとして、その子がお料理を作る事は出来なくても、出てきたお料理に対して「ちょっと塩味が濃くない？」という、ある味の基準値は持っているのではな

いかと思います。私は父の舞台を観ていないのがたぶん2、3本というぐらい、小さい頃から本当によく観ているので、もしかしたら子供の時から、こういうものがいいものなのだという演技に対する基準値が身につけているのかなと思います。

これだけやっている人が身内にいると 驕ることが絶対に出来ない

S 蜷川さんは来年上演する予定の舞台は11本ですね。とんでもないですよ。

MN 11本もやるというのに来年で72歳でしょう。私も忙しいけれど「忙しくて偉いね」「すごくやっていて偉いね」とかいろいろと言われても、これだけやっている人が身内にいると驕ることが絶対に出来ないのです。「私ってすごいんだ」とか、自分の実力以上に勘違いしたりとか、みんなにちやほやされていい気になりようがないのです。それはすごく重要で、そこが絶対にぶれないというのが一番大きな財産かなと思っています。

N そんなことを考えているんだ、初めて知ったよ。

S 照れていますね。お父様、お母様の名前が知られているという、どうしても親の七光りがどうかでできて、反発するし、気にしないというフリをするのも不自然だし、とすごく大変だと思いますが、そこがニュートラルにこれたというのはなぜでしょう。

MN 「蜷川幸雄の娘」ではなく、蜷川実花として認識してもらうにはどうしたらいいのだろうと、たぶん5歳ぐらいから焦っていたんですが、それがかえってすごくよくて、焦るというのはすごく重要な事だと思います。それは私の中で大事なキーワードです。焦るからこそ早く、私だったら写真に出会えたり、蜷川実花とは何なのだろう、蜷川実花として認識してもらうのにはどうしたら、というように、人よりは多くのプレッシャーがかかっていたことは、それはすごくラッキーだと思います。

私は女だからかな、男の子だったらいろいろな反発があつたのかも知れないですね。

N この世界では知名度がある父親を持っていてプラスになることはないし、それでチャンスが来ることも絶対ないし、マイナスの要素の方がはるかに多いと思います。娘には何の手助けもなかったし、周辺に父親の影を感じさせないように気をつけていました。勝手に自分で応募して、勝手に写真家になつたのです。私は娘が好きなものを自分で見つけて、本当によかつたなあと思います。

思えば、小さい時に散歩に行つて彼女が写真などを撮っていると、「何であいつはそんな所を撮っているのだろう」というような感じでした。花にばかり寄っていたり、よく雑草みたいなものを撮ったりしていましたが、もつとあつちを撮ればいいのになあとか、変な所を撮るんだなあと思つていましたが、作品が上がつて見ると

「ああ、そうなのか。人によって景色の中で選ぶものがこんなに違うんだ。これは僕の何かを押しつけたりはしない方がいいのだな」と思つたので、写真の事については一切口出しはしていません。娘に「どう?」と聞かれば「いいねえ」ぐらいで、その他の感想はほとんど言っていないと思います。

S そのお父様の態度はいまにして思うと助かりましたか。

MN 多分必要以上に自意識がお互いあつて、私の展覧会の初日も未だに絶対来ないですし、仲はいいのですが、二人でここにいる(公開対談している)こと自体が不思議です。ここは父にとって大事な聖域だと思うのです。生まれて初めて父親の稽古場に行ったのは、私が32歳の時で、それまでそこは絶対の聖域で入れない所だと思つていました。完璧に一人前になつたらいつかは見に行きたいと思つていた所ですが、その時は丁度映画をやるのが決まつて、父は一体どんなふう演技をつけるのだろうと思つて行きまし

娘が好きなものを自分で 見つけて本当によかつた。



蜷川幸雄 Yukio Ninagawa

埼玉県川口市出身。シェイクスピアはもとより、ギリシア悲劇から日本の古典・現代劇まで幅広く手がけ、数々の名舞台を世界に送り出している。昨年も『近代能楽集』ニューヨーク公演、歌舞伎『NINAGAWA 十二夜』『メディア』『天保十二年のシェイクスピア』など多数の演出を手がける。まさに世界を舞台に疾走し続ける演出家。2006年 第5回朝日舞台芸術賞特別大賞 第13回読売演劇大賞・大賞 最優秀演出家賞受賞(財)埼玉県芸術文化振興財団芸術監督。

たが、すごく怖くて、その意味では参考になりませんでした。32歳になるまで足を踏み入れられなかった境界線が、家族だからより強くあると思うのです。だからたぶん父も私の写真に関しては本当に「いいね」とか、私もお芝居を観て「面白かった」しか言わないんだと思います。

自分に対する厳しさが、 クリエイター同士の共通点

S こうなつてくると11本を1本1本全力投するしかないですね。

N 大丈夫なんですかね。才能が音を立てて消えるのです。「ああ、だめだ、失敗した」というのがあるのです。演出家は俳優に質問されたらとりあえず何でも答えなければいけないと思いますが、僕は立ち往生したら演出を辞めようと思つて決めています。説得力のある言葉でその場をしのげなかったり、イメージが出せなかったりしたら、チームが崩壊します。来年いっぱいメチャクチャやっちゃおうと思つているから、今はだからいいのです。カキカキと目が覚めています。

S 音を立てて崩れていくというのは、どんな音だと思いますか。

N 最近の仕事も自分でも「あああ!あそこは何にもやっていないな」と思つたので、それは危機感があります。だから(9月にシアターコクーンで上演した『オレスティス』はどんな劇評があらうと誰が何と言おうと、世界のトップクラスの仕事をしていると僕は自分で思つています。それはどう考えるかという、ウェストエンドやブロードウェイ、イギリスだったらナショナル・シアターでもいいが、世界の第一線で仕事をしている演出家達の作品が並ぶ劇場に自分の作品を入れてみる、そして反対側の歩道橋からそれを眺め、看板を見、中に入り、出てきて、その一番いいものと比べた時に「ああ、大丈夫だな」と思つています。

S お父様の話を聞いていて、もちろん作つているものは違いますが、同じクリエイターとしてやはりそういう苦労とかはどうですか。

MN 本当に深く頷けるといふか、私は、自分のことを一番厳しく、一番低い点数をつけられる自分になりたいと思いますし、出来るだけ俯瞰で自分のことを見たいし、同時に一番自分を信じ、褒めるのも自分でいたいし、絶対的な自信と一番「ここ、ちょっとほこりがあるんじゃないの」と見られるぐらいの、両極が欲しいのです。真ん中は全然いらないうです。両方が欲しくて、その両方がチェックできていけばいいなあと思つてやっています。舞台よりも、1回1回の撮影が短いので、すごくチェックすることが多いのです。一つでも「この間やつたこととちょっと似ていることをやつてしまったな」と周りが気づいていなくても自分で気づくことがあるので、今、気づきましたが、こういう気質は父からきているのだなあ、とすごく思いながら聞いていました。

S 今日は親子の間でも初めて知つたこともたくさんあつて、とても刺激的でした。ありがとうございます。

彩の国シェイクスピア・シリーズ

第16弾

第17弾

『コリオレイナス』『恋の骨折り損』

公演に向け 高まる出演者たちの意気込み

俳優たちにとって シェイクスピア劇に出演するという事は 大変な覚悟がいるものらしい。膨大なセリフ 演じ方でいかようにも変化する奥の深さ.....

ましてや蜷川幸雄の演出ともなればおして知るべし。

来年に公演を控える『コリオレイナス』『恋の骨折り損』の出演者たちもしかり。

早くも気合いの入っている彼らの意気込みを、

まずは蜷川作品初出演者も多い『恋の骨折り損』から届けよう。

文・木俣冬(ライター)



北村一輝(きたむらかずき)
俳優・ディナンド国王
映画・ドラマを中心に独特の存在感のある演技で注目を集めている。最近の主な出演作にTVドラマ『大奥 華の乱』(CX)『夜王』(TBS)『医龍』(CX) 映画『東京フレンズThe movie』『花田少年史 幽霊と秘密のトンネル』など。



姜暢雄(きょうのぶお)
フランス王女
劇団『Studio Life』に所属し、舞台での活動の他、ドラマ・映画にも活躍の場を広くしている。主なテレビ出演作にNHK朝の連続テレビ小説『わかば』など。出演映画『NANA 2』が12月9日公開される。

窪塚俊介(くぼつかしゅんすけ)
デューマン
TVドラマ『ビー・バップ・ハイスクール』(TBS)でデビュー以来、映画・ドラマ・舞台などで活躍中。主な出演作として、舞台『歩兵の本領』映画『火火』『最終兵器彼女』『スケバン刑事』コードネーム=麻宮サキなど。

高橋洋(たかはしやう)
ピローン
1998年『ロミオとジュリエット』に出演して以来、蜷川演出作品には欠かせない俳優の一人として活躍している。最近の舞台出演作に『天保十二年のシェイクスピア』『間違いの喜劇』『白夜の女騎士』『あわれ彼女は娼婦』など。

恋の Love's

蜷川作品初出演が4人も!

個性豊かな8人のイケ男たちがそろった『恋の骨折り損』。さすがに蜷川幸雄が注目する逸材ぞろい。本番はまだ来春だというのに、戯曲を読むのはもちろん、映画版を観るなど、早くも戦闘準備に入っている!

映画・テレビドラマで活躍する北村一輝さんは『夜王』(TBS)を観た蜷川が「この人と仕事がしたい!」と熱望した俳優。「俳優としていつかは蜷川さん演出のシェイクスピアの舞台に挑戦したいと願っていたので、オファーを頂いてビックリしました。とても光栄です。言葉の美しさなど作品性の高さに、やりがいを感じています。国王役なので上品なおもしろさを出せれ

ば」と抱負を語る北村さん。現場では面倒見がいいという証言も聞こえ、蜷川舞台初出演ながら、名実共に(!?)国王としてリードしてくれそうだ。

今回、初参加組は北村さんを入れて4人。国王が恋するフランス王女役は姜暢雄さん。NHK朝の連続テレビ小説『わかば』でも注目され、ヒット映画の続編『NANA 2』(12/9 公開)出演にも期待が高まる。〈Studio Life〉というオールメール劇団に所属し、女性役にも定評がある「村娘」町娘役は多いですが、王女役ははじめて。今から王女らしい動きを研究しています。男ばかりのカンパニーでは、同性同士で気を使わなくていい部分や、男ばかりの熱さでこそできる世界観があることを、劇団の体

験からもわかります。今回もきっとおもしろくなると思います。回答にも楚々とした雰囲気醸し出していた。

映像でも活躍、舞台では唐十郎戯曲を演じたこともある窪塚俊介さんは「2年くらい前、デビューしたばかりの時に蜷川さんの稽古場を見学させてもらいました」と告白。今回、満を持しての出演となる「この作品は登場人物たちの知恵と知識の応酬がおもしろいですね。男性チーム、女性チームという集団の個性も見どころですが、それを生かすためにもまず構成するひとりひとりが個性を出さなくてははいけないと思っています」と鋭い分析をする。

窪塚さん演じるデューマンが恋するキャサリン役、中村友也さんも初参加組。8人

の中で最年少「蜷川さんという絶対的な存在の中で、何ができるか試してみたい」と熱い。ケネス・ブラナー監督のミュージカル映画版をさっそく観たと言う勉強家。「映画では僕の役は純粋な女の子というイメージでしたが、戯曲ではそんなに限定されたイメージは描かれていないので、蜷川さんの演出を受けながら、僕なりのキャサリンを作っていきたいです。」

初出演組の面々は蜷川演出でどんな魅力を見せてくれるだろうか。

蜷川との出会いで成長する俳優たち

実際、蜷川と出会って成長できたと言うのは内田滋さんと須賀貴匡さん。内田さんは、今年2月のシリーズ第15弾『間違いの喜劇』で、美女がコミカルな言動をするギャップを鮮やかに演じた「2度目の女性役にはややプレッシャーがあります。男の役ならいろいろなパターンを出せる気がしますが、異性だとそうそう変えられない気がして...」と言いつつ「蜷川さんには、もう一滴も出せないというくらい雑巾を固く絞るように、自分からアイデアを絞り出す

ことを教わりました。その後松尾スズキさん・G2さん・長塚圭史さんの舞台に出演し「経験」という水がもし溜まっていたら、また絞り出していきたいですね」と頼もしい。

須賀さんは、04年『KITCHEN』で、蜷川演出を初めて経験し「精神面でも技術面でも鍛えられました。蜷川さんの現場は、皆のモチベーションが高くて刺激になります」と言う。舞台上で繊細に役に取り組んだことで、徐々に役者としての意識が高まった感がある。「今回は若い貴族たちが一生懸命恋をする物語。知性はあっても若さゆえの恋愛への不安定さや欠落した部分などを一生懸命演じることで、おかしさにつながるのかもしれないね。」

オールメール作品の魅力とは?

さて、ラスト2は蜷川舞台常連の頼もしい俳優達。オールメール喜劇に3作連続出演している高橋洋さんと月川悠貴さんだ。

高橋さんは『間違いの喜劇』で難役・道化を軽やかに演じた。今回は「国王の臣下ではリーダー格のピローン。内田さん演じるロザラインに恋する役だ。」

「戯曲を読んでいて、姜さん演じる王女とロ

ザラインを間違える場面で、姜さんって背が高いから冷静に考えると間違えないだろう?と、ふと疑問に思ったんですよ(笑)。だいたい、8人の男女がよってたかって恋をする設定もおかしいといえどおかし。でも、シェイクスピア流の少し強引な設定や、理屈で考えるとおかしな部分がある。男が女を演じることで、リアルに突き詰めなくてよくなる...それがオールメール演劇の良いところのひとつだと思います。

「オールメールの喜劇で、男が女性を演じるという非現実の世界と、本当に女性が存在しているような現実の世界を楽しんでください」という月川さんは、須賀さん演じるロンガヴィルに想われるマライア・オールメール喜劇で常に女性役を演じ、毎回すきのない美しさを披露している月川さんは、今回、美しき女役が4人に増えたことに対して「張り合いがあつていいかな。負けられない(笑)。美しさを維持するだけでなく、もっともつと美しくならないといけない」と静かに闘志を燃やす。

8人8色の作品への思いを聞くと、今から初日が待ち遠しくてならない。

骨折り Labour's Lost 損



内田滋(うちだしげ)
ロザライン
舞台『毛皮のマリー』でデビューして以来、舞台を中心に幅広く活動している。彩の国シェイクスピア・シリーズ第15弾『間違いの喜劇』では、エイドリアーナ役を好演した。最近の舞台出演作は「またまたお金の唄』『イヌの日』など。

月川悠貴(つきかわゆうき)
マライア
数々の舞台・テレビの他、コンサートやディナーショーなど歌手としても活動している。また、蜷川演出作品の女役にはなくてはならない存在である。主な舞台出演作に『お気に召すまま』『近代能楽集』『間違いの喜劇』など。

中村友也(なかむらともや)
キャサリン
2005年ドラマデビューした注目の若手俳優。主な出演作としてTVドラマ『風のハルカ』(NHK)『神はサイコロをふらない』(NTV)、映画『七人の侍』『乱歩地獄』『俺は、君のためにこそ死にいく』(2007年公開予定)など。

須賀貴匡(すがたかまさ)
ロンガヴィル
映画・ドラマを中心に活躍する他、05年蜷川演出作品『KITCHEN』に出演するなど舞台にも活躍の場を広くしている。最近の主な出演作としてTVドラマ『夜王』(TBS)、映画『ウォータース』『魅!クロマティ高校』など。

CORIO LANUS

TOSHIKI KARASAWA + KAYOKO SHIRAIISHI + MASANOBU KATSUMURA
Interview

唐沢寿明さん、白石加代子さん、勝村政信さんインタビュー

まったく新しい『コリオレイナス』誕生の予感

来年1月に公演を控え、すでに気持ちの上でも準備を始めている『コリオレイナス』出演者の面々。シェイクスピア作品に出ることは、俳優にとってそれだけ大変なことだと、唐沢寿明さんはいう。「シェイクスピア作品に出るといのは、試される気がする。せりふの量が尋常じゃない上に、それを頭からラストまでお客さんにちゃんと言葉として伝えられるかが肝心。声も体力も滑舌も俳優として持っているベーシックな部分が試される。そういうの

が試されない舞台というのは、何本やっても変わらないと思います。だから、やりきった時にはまだ俳優として大丈夫だと思うのかもしれない」。蜷川演出の『夏の夜の夢』など数々のシェイクスピア作品の経験もある白石加代子さんも「シェイクスピア作品は言葉の洪水だから、それをとにかく成り立たせなければならぬというのが苦勞」と打ち明ける。もちろん、蜷川幸雄の演出である以上、ましてや来年4月にロンドンでの公演も決定しているのだから、要求水準が高いのは誰もが覚悟しているところ。白石さんは言う。「蜷川さんの作品は、いつも世界レベルを目指しているのだから、『コリオレイナス』に限ったことではないと思いますが、出演者全員がより高いレベルを目指すと思います」。海外公演をするのは今回が初めてだという勝村政信さんも静かな闘志を燃やしている。「蜷川さんのおかげもあって、今は海外のハードルは低くなったし、日本のお芝居の水準も今は高いと思う。しかし、言葉がわからない分、せりふのリズムなどでニュアンスを伝えられたらと思う」。

蜷川演出の『マクベス』で、ニューヨーク公演を経験した唐沢さんは、はやる心を押さえ気味にこう語ってくれた。「基本的には日本でちゃんとやることです。まず日本のお客さんに喜んでもらうこと、認めてもらうことが第一で、それが無いとだ



勝村政信

「お客さんには本を読むなどして、目を磨いて来ていただけたら嬉しい。お客さんの見る目が違ってくる。演じる側もどんどんよくなりますから」

唐沢寿明



「この劇場のつくりや雰囲気が好きなので、都内からだちょっと遠いかもしれませんが、ぜひ観に来てください」

めだと思うんです。イギリスはその後」。蜷川さんですから、まずどこかで観たようなシェイクスピアだなんていうふうにはなりません。鮮度みたいなものを、蜷川さんは絶対に見逃さないでやりになると思うから」と白石さんもおっしゃるように、蜷川と出演者たちの熱意で、まったく新しい『コリオレイナス』が誕生する予感。それを、世界で初めて彩の国さいたま芸術劇場で観られるのは、なんとという贅沢なことだろう。



白石加代子

「唐沢さん、勝村さんともに、舞台での力もさることながら、楽屋内での全体への配慮の仕方がすばらしい方たちです」

『コリオレイナス』恋の骨折り損』を連続観劇すると……

『コリオレイナス』は来年1月～2月『恋の骨折り損』は来年3月の公演予定。これを連続で観劇すると、シェイクスピアという人間や作品の幅広さが見えてきて、さらに楽しめそう。そんな見方の極意を、ギリシャ悲劇研究者であり、蜷川幸雄演出の『メディア』『オレステス』などの翻訳でも知られる山形治江さんが解説する。

コリオレイナスは、民衆どころか観客にすら媚びない。彼はハムレットのように哲学的に悩みを打ち明けたり、マクベスのように文学的に心情を吐露したりして観客の心をつかむ長い独白なんかしないのである。また民衆を蔑視し民主主義を罵倒する傲慢な態度と自制心のきかない攻撃性も、観客から共感を奪う。この偏狭な性格は子供時代から続く、口うるさい母へのストレスに起因するというマザコン説があるそうだが、大きなお世話である。それより気になるのは、無責任に付和雷同する「尻軽な世論」が英雄を国賊に変える危険性だ。あまりに無節操な市民の姿を舞台上に見ながら、われわれも民主政治を衆愚政治に変える煽動的発言や大衆操作には警戒すべきではないか、などと、今の日本の政治についていつになく真剣に考えてしまう劇である。

この劇を発表した時、シェイクスピアは40代半ば。すでに傑作喜劇群で大成功し、四大悲劇で人気作家として不動の地位を築いていた。以後、作風はロマンティックな悲喜劇に変わる。つまり『コリオレイナス』を見れば、彼の心境変化の一端に触れることができるわけだ。一方、『恋の骨折り損』はシェイクスピアが流行作家になりかけの30歳頃の作品である。山場に欠けるのだ。登場人物が小粒だと批判もあるが、なにしろ若いから勢いも遊びもある。軽妙な機知台詞、手紙の利用、立ち聞き、劇中劇など、それ以後の喜劇で最大の効果を上げた手法が満載だから、あれはここで使われていると考えるのも楽しい。しかも今回の舞台は男優のみ。当時は変声期前の初心な少年が演じていた女役をイケメンたちが地声で演じるので、ますますエロティックだ。二作を連続して観劇すれば、シェイクスピアの作家としての幅と成長の軌跡がよくわかる。

文・山形治江

やまがたはるえ、ギリシャ悲劇研究者、翻訳家、津田塾大学英文科卒、早稲田大学大学院西洋演劇専攻博士課程満期修了、イギリス、ギリシャへの留学を経て、現在、日本大学教授、早稲田大学講師、山崎学園短期大学講師。主な著書に『ギリシャ悲劇～古代と現代のはざままで～』（朝日選書480）翻訳に『オイディプス王』（エレクトラ）（劇書房）『オレステス』（れんが書房新社）など。

彩の国シェイクスピア・シリーズをもっと楽しむためのイベント案内

「さいたまアーツ・シアター ライヴ!!」で気分を盛り上げる

彩の国シェイクスピア・シリーズで恒例となったこの企画は、開演1時間前から30分ほど、彩の国さいたま芸術劇場情報プラザなどで行うミニ・コンサート。お芝居の始まる前に、素敵な音楽を無料で楽しめるので、いつもより少し早めに劇場に足を運んでみては？



【日時】彩の国シェイクスピア・シリーズ公演日（2007年1月23日～2月8日、3月16日～31日）
【会場】彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ 他

『コリオレイナス』恋の骨折り損』稽古場見学会を実施！

埼玉県在住の方及び財団メンバーの方を対象に、稽古場見学会を開催します。参加ご希望の方は、以下の要領でご応募ください。

- 【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大稽古場
- 【日時】『コリオレイナス』2007年1月12日（金）11:00～『恋の骨折り損』2007年3月初旬予定（各回約1時間実施予定。時間は変更になる場合があります。）
- 【定員】各回30名（参加費無料）
- 【申し込み方法】『恋の骨折り損』については次号でお知らせします。ハガキに以下の事項を記入の上、締切日までににご応募ください。お葉書1通にてお1人様受付（応募多数の場合は、抽選を行います。この場合、入場券の発送をもって抽選結果の発表に代えさせていただきます。）
- 記入事項：①自宅または勤務先の郵便番号・住所 ②氏名 ③電話・FAX番号 ④会員番号（メンバーの方）
- 応募締切：『コリオレイナス』12月6日（水）（当日消印有効）
- 応募先：〒338-8506 さいたま市中央区上峰3-15-1 彩の国さいたま芸術劇場 『コリオレイナス』稽古場見学会

第16弾 『コリオレイナス』

【日時】2007年1月23日（火）～2月8日（木）
【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
【演出】蜷川幸雄
【作】W・シェイクスピア
【翻訳】松岡和子
【出演】唐沢寿明、白石加代子、勝村政信、香寿たつき、吉田鋼太郎、碓川哲朗ほか
【チケット（税込）】
S席9,000円 A席7,000円
B席5,000円 学生席2,000円
チケット好評発売中

SHAKESPEARE
×
YUKIO NINAGAWA

第17弾 『恋の骨折り損』 NEW

【日時】2007年3月16日（金）～3月31日（土）
【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
【演出】蜷川幸雄
【作】W・シェイクスピア
【翻訳】松岡和子
【出演】北村一輝、姜暢雄、窪塚俊介、高橋洋、内田滋、月川悠貴、中村友也、須賀貴匡ほか
【チケット（税込）】
S席9,000円 A席7,000円
B席5,000円 学生席2,000円
【発売日】11月18日（土）

『コリオレイナス』恋の骨折り損』バックステージ・ツアーを開催します！

『コリオレイナス』恋の骨折り損』の公演チケット（半券可）をお持ちの方を対象に、バックステージ・ツアーを開催します。参加ご希望の方は、以下の要領でご応募ください。

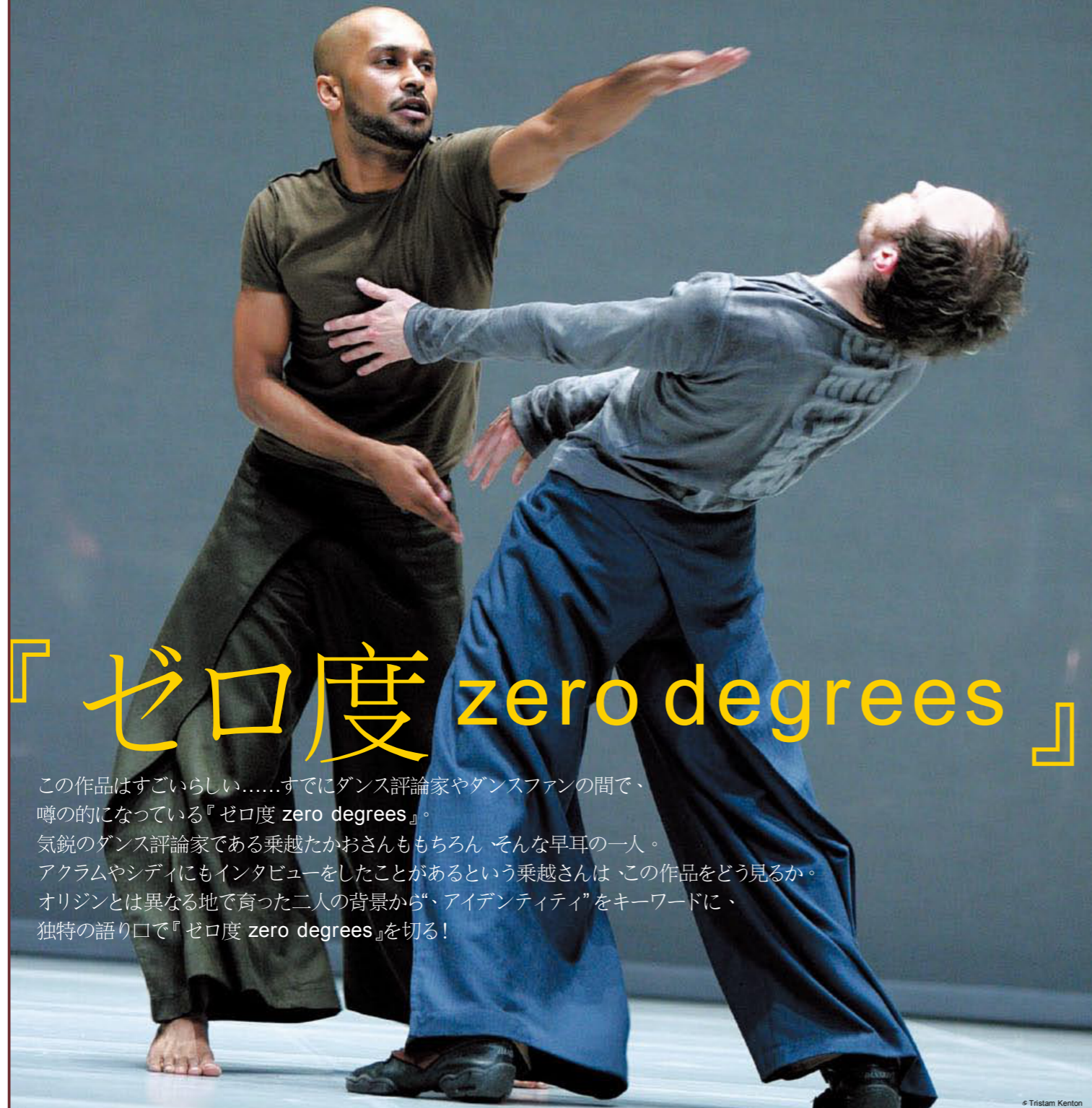
- 【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
- 【日時】『コリオレイナス』2007年1月28日（日）（13:00開演）公演終了後、『恋の骨折り損』2007年3月下旬予定（13:00開演）公演終了後
- 【内容】舞台美術家・中越司氏のお話と舞台セットの裏側（見学可能な範囲を見学（40分程度））
- 【定員】各回30名（参加費無料）
- 【申し込み方法】『恋の骨折り損』については次号でお知らせします。ハガキに以下の事項を記入の上、締切日までににご応募ください。（応募多数の場合は、抽選を行います。この場合、入場券の発送をもって抽選結果の発表に代えさせていただきます。）
- 記入事項：①郵便番号・住所 ②氏名 ③ご購入チケットの公演日時と席番（ハガキ1枚につき2名様まで）
- 応募締切：12月10日（日）（当日消印有効）
- 応募先：〒338-8506 さいたま市中央区上峰3-15-1 彩の国さいたま芸術劇場 『コリオレイナス』バックステージ・ツアー係

Akram Khan

アクラム・カーン

Sidi Larbi Cherkaoui

シディ・ラルビ・シェルカウイ



『ゼロ度 zero degrees』

この作品はすごいらしい.....すでにダンス評論家やダンスファンの間で、噂の的になっている『ゼロ度 zero degrees』。気鋭のダンス評論家である乗越たかおさんももちろん、そんな早耳の一人。アクラムやシディにもインタビューをしたことがあるという乗越さんは、この作品をどう見るか。オリジンとは異なる地で育った二人の背景から、「アイデンティティ」をキーワードに、独特の語り口で『ゼロ度 zero degrees』を切る!

まるで旅のような、人生のような、全てのエッセンスを凝縮した一幕

アイデンティティとは、カンタンに言えば「自分とは何者であるか」という根拠のことだが、たいていの人は、「いや、根拠もなにも、オレはオレつすよ」と思うのだろう。日本とはそういう国だ。島国という立地のため、違う言語・文化・宗教の人とはほとんど触れずに生活することが可能だ。アイデンティティなんて改めて考えなくても生きていける.....と思いきや、果たしてそうだろうか? カラオケで「そのままのキミでいいんだよ」とか歌ってジーンとしたりしてないだろうか? 人は、まったく孤独では生きていけない。直接/間接を問わず、他人や社会との関連において自分の立ち位置を確認しながら日々を生活しているものなのである。

『ゼロ度』という作品でテーマとなるのはまさにそこだ。ヨーロッパの若手で今最も注目されているシディ・ラルビ・シェルカウイと、いままですら正式な来日公演がなかったのが不思議なくらいの人気を誇るアクラム・カーン。この二人が組む、というだけで、世界のダンスファンは色めきたったものだった。

そしてこの二人ともが、複雑な出身だ。アクラムはバングラデシュ系イギリス人、シディ・ラルビはモロッコ系ベルギー人。そして両者ともPARTS(ベルギーが誇るダンス・カンパニー『ローザス』の芸術学校)と縁がある。ベルギーは様々な国に占領されてきた歴史があり、現在もひとつの国の中に公用語がふたつあるなど(オランダ=フラマン語とフランス=ワロン語)、たえず国のアイデンティティが揺らいできた。

冒頭は並んで座り、モノローグ(独白)から入る。二人して同じセリフを話すのだ。それは断続的に続けられ、実際に列車で国境を越えたときの体験談が語られる。それは多分にショッキングで、パスポートという身分証明書(アイデンティフィケーション・カード)にまつわる話になっていく。

しかしもちろん一番の見所はダンスだ。面白いのはダンスシーンこそがダイアログ(対話)のように、相手の身体を探りながら、展開していくのである。あるときはユニゾンで、またあるときは武道家二人のごとく立ち向かって全身を刃のごとく切り結ぶ。このときこそ、まさにダンスという芸術の奥深さ、つまり言葉も文化も越えて響きあえる可能性を実感させてくれる瞬間なのである。アクラムの空気を切り裂くような動き、とくに彼が幼い頃から学んでいた北インド地方の伝統舞踊「カタック」に通じる切れの良い回転。そしてそんな殺気を柔らかに受け入れ、時に同調し時に弾くように動くシディ・ラルビ。

『ゼロ度』は、ダンスのうまい人が観客に向かってさあどうぞと見せるタイプの舞台ではない。社会的なアイデンティティを剥ぎ取り、ゼロの存在のままでも他者と関わり、自らを覚醒させていく。まるで旅のような、人生のような、全てのエッセンスを凝縮した一幕なのである。

文・乗越たかお(作家・ヤサグレ舞踊評論家)



最注目ダンサー／振付家による奇跡のデュエット

アクラム・カーン＋シディ・ラルビ・シェルカウイ **NEW**

『ゼロ度 zero degrees』

民族の伝統とヨーロッパの文化という二重の背景、不確実なアイデンティティを背負った2人が、葛藤と協調を重ねて切り開く、新たなダンスの地平。超絶技巧に彩られ、詩的な美しさに賞かれた、ダンス界最大の話題作をお見逃しなく。

【日時】2007年1月12日(金) 開演 19:30
13日(土) 開演 16:00 / 14日(日) 開演 16:00

※12日の公演終了後に、出演者によるトークを行います。

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

【演目】『ゼロ度 zero degrees』

【振付・演出・出演】アクラム・カーン、シディ・ラルビ・シェルカウイ

【音楽】ニッティン・サウニー 【彫刻】アントニー・ゴムリール

【チケット(税込)】

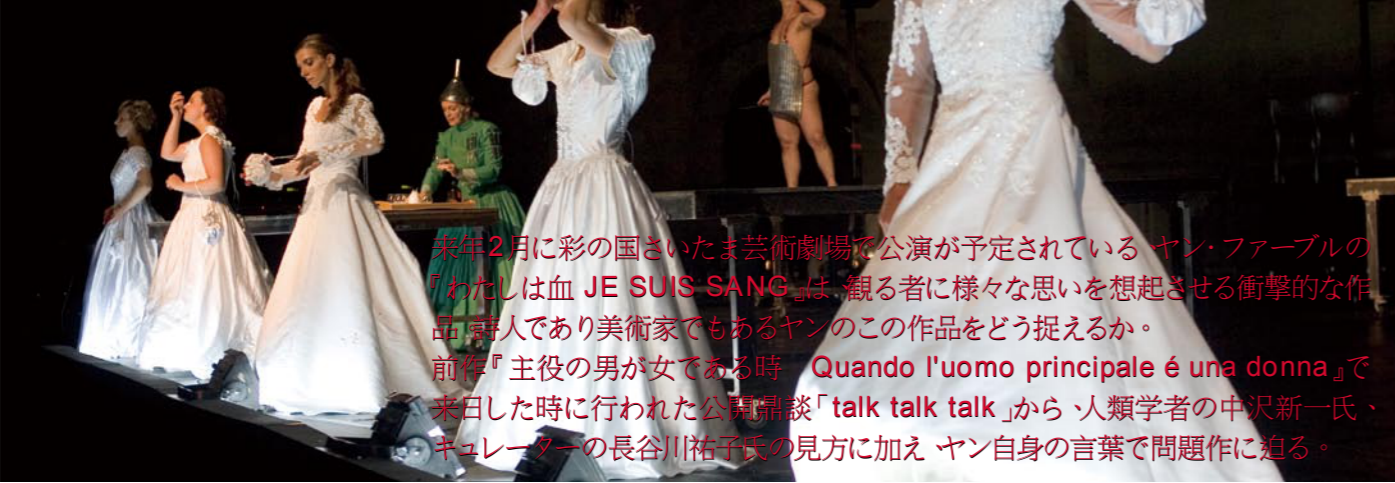
一般 S席5,000円 A席3,000円 学生 A席2,000円

メンバーズ S席4,500円 A席2,700円

【発売日】メンバーズ 10月21日(土) 一般 10月28日(土)

のりこしたかお 主著に『コンテンポラリー・ダンス徹底ガイド HYPHER』(作品社)、『ダンシング・オールライフ 中川三郎物語』(集英社)、『アリス・ブロードウェイを魅了した天才ダンサー 川畑文子物語』(講談社)等『シアターガイド』『DDD』で連載中。

中沢新一、長谷川祐子が読み解く
ヤン・ファール
『わたしは血 JE SUIS SANG』



来年2月に彩の国さいたま芸術劇場で公演が予定されている ヤン・ファールの『わたしは血 JE SUIS SANG』は、観る者に様々な思いを想起させる衝撃的な作品。詩人であり美術家でもあるヤンのこの作品をどう捉えるか。前作『主役の男が女である時 Quando l'uomo principale é una donna』で来日した時に行われた公開鼎談「talk talk talk」から、人類学者の中沢新一氏、キュレーターの長谷川祐子氏の見方に加え、ヤン自身の言葉で問題作に迫る。

© Wonge Bergmann

中沢新一
芸術人類学とほとんど似た結論に至ろうとしている

ヤン・ファールさんの昆虫を使った美術作品が非常に興味深いのは、昆虫は身体の回りに甲冑をつけている生き物で、甲冑の中は人間以上にどろどろの内臓が入っているということです。人間の場合は甲冑をつけるがその下に皮膚があり、通常の身体をその甲冑が守っている。中世の騎士はそれで戦うのですが、騎士のあり方というものにも非常に僕は引かれるものがあります。ヤンさんとは、5年前に丸亀市の猪熊弦一郎現代美術館で展覧会をなさった時に対談しましたが、その中で「私はとても古めかしい考え方をする人間である。そして今の作品の冒頭にも、中世と現代はそんなに違いはなく同じなんだ」というメッセージが出てきました。

芸術人類学では「人間は中世と今は違いがないどころではなく、旧石器時代からあまり変わらないのではないか」というのが僕の考えなのです。中世の時代は人間の本質をすごく露わにしました。僕らの世界では死ということをわりと表にださずに隠してしまっていますが、中世は生きている隣に死神がいて、騎士達は昆虫のような身体に身を固めて戦うわけですが、戦えばやはり死にます。中世では生と死は本当に身近に行き来していて、身体自体も今の僕らが考えているよりはもっとダイナミックなことを考えていたようです。

人間は昆虫のように変化していくものだし、甲冑を身につけることは単なる防衛のためではなく、昆虫のように人間が変わっていくということを意味していたようです。人間と動物、生きているこ

とと死んでいることがすぐ隣り合わせになっているような時代で、しかもこの時代を考えると、もって昔を考えていいと思っています。人間がこれから向かっていく先に、人間の身体、神経組織、体液が一体どういう形に変わっていくだろうかという事を考える時に、一番いいモデルを与えてくれるのが中世なのです。

中世は古代と近世の間に挟まれた時代だが、古代も近世もこういう生と死の接近は起こっていないのです。今僕らが未来に向かつて人間の存在がどういう形に変わっていくか考える時に、中世の事を考えるとすごくインスパイアされることが多いのです。それが昆虫であったり、昆虫のような騎士であったりするという事をヤンさんが芸術の中心テーマに据えていて、僕の考えていることと大変親しいものを感じました。

今度の『わたしは血 JE SUIS SANG』という作品はそういう側面がかなり表面に現れていて、私は血である、体液であって、多分それは神経組織、筋肉組織だけになって、さらにほぐれて神経組織だけになっていき、そしてその神経組織と寄り添うように走っている血管やリンパ腺の中を走っている液体になったりして、そうして人間の身体がどんどん神経組織や体液に変化していく状態を作り出そうとしているのです。

僕はそれをかなり昔の時代の事から考えようとしているが、ほとんど似たような結論に至るかもしれないというのはとても関心が深いアーティストなのです。



SHINICHI NAKAZAWA

中沢新一
1950年山梨県生まれ。東京大学大学院人文科学研究科宗教学専攻博士課程単位取得満期退学。1979年よりネパールに赴きチベット僧につき密教の修行を積む。現在、多摩美術大学教授、同大学芸術人類学研究所長。著書に『チベットのモーツァルト』『サントリー学芸賞受賞』『森のバロック』『読売文学賞受賞』『哲学の東北』『斎藤緑雨賞受賞』『芸術人類学』など多数。



長谷川祐子
「永遠と現在」「日常と非日常」
「身体と別の身体」をトランス

私が最初、ファールさんを知ったのは、1993年に水戸芸術館にいた時に企画した「アナザーワールド・異世界への旅」という展覧会で。そこでは「青」がテーマでした。アナザーワールドとは「あの世」という意味ですが、あの世の展覧会を作りたいと思いました。アーティストは私たちが親しんでいる日常を非日常の世界に連れて行くという精神的な旅のナビゲーターのような存在と考えた展覧会だったので。

ファールさんの巨大なドローイング、本当に皆さんにお見せしたいのですが、このステージの幕を横断するくらい大きく、高さも10mぐらいあるようなその大きなシルクの布にファールさんがビックのボールペンでドローイングを書かれるのです。それは彼が自動記述のような形で、自分の無意識を開放していくような状態で描かれたすばらしい緻密なドローイングでした。それは「青の時間」と題されており、そのドローイングを展覧会にもっともふさわしいものとして展示したいと思っていたのが最初の始まりでした。

また、昆虫がファールさんのテーマの1つです。例えばスカラベという虫なのですが、何千年も前から同じ形を維持している。変容するもの、昆虫は変態していくわけですが、変化する生命の象徴として自分の彫刻の素材として使っています。そこから「永遠と現在」私たちの「日常と非日常」、そして私たちの身体と全く別のものの身体を繋げていくという事で、彼は違う世界をトランスしていく人として私は興味深く一緒にお仕事をしてきました。



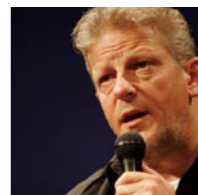
YUKO HASEGAWA

長谷川祐子
京都大学法学部卒業。東京藝術大学大学院美術研究科修士過程修了。水戸芸術館、世田谷美術館、金沢21世紀美術館で学芸員を歴任後、現在は東京都現代美術館事業企画課長、多摩美術大学芸術学科研究室教授、手掛けた展覧会に「アナザーワールド・異世界への旅」(1992-93年、水戸芸術館現代美術ギャラリー)、マッシュ・バーニー：拘束のドローイング(2005-06年、金沢21世紀美術館)など多数。

ヤン・ファール
テクノロジーの支配を拒否し、自分の肉体に立ち返る

初演は2001年ですが、最初にこのパフォーマンスについて考え始めたのは70年代の事です。その頃は自分の身体について非常に興味を持っていました。例えば自分の血を使って絵を描いたりして、自分の身体に対する探求がこの頃に始まったのです。この『わたしは血 JE SUIS SANG』というテキスト、マニフェストのようなものが出来たのが1995年の事で、そのマニフェストの中では「血」というものの重要性を考えていました。そこでは「血」というのは我々にとっては非常に重要な液体であるという以上に、さらに命の力のようなものの象徴でもあります。血の重要性を再確認することによって、我々は新しい肉体を作っていくことが出来るのではないか。すなわち我々が現在もっている肉体のあり方からさらに一歩前進した未来の肉体というものを作り上げることが出来るのではないかとこの事を考えていました。それは例えばキリストの精魂といったようなイメージから発展しているようなわけですが、さらに人間と動物という関係についても考えました。人間と動物の血が混ざり合うといったようなイメージを考えていました。

全体としてはこのマニフェストは自分の身体、肉体というものが持つ価値であるとか、重要性といったものに立ち返り、そのテクノロジーによる支配を拒否するという事が中心的なテーマになっています。例えば作品中の振り付け、俳優やダンサーの動きは、古典時代のフランスの絵画からとったものです。例えば聖人を描いたような絵画を参考にしています。このパフォーマンスは鎧を使ったダンスで始まりますが、鎧というのは身体を覆って保護する物があります。このパフォーマンスが進むにつれて、鎧とか人間を覆っている皮が剥がれて落ちていくということになり、最終的には人間の身体は全く空になってしまいそこに現れてくるのが新しい未来の身体、血で作られた身体ということになるのです。



JAN FABRE

ヤン・ファール
1958年ベルギー生まれ。アントワープ王立美術アカデミー卒業。アーティスト活動を開始。ダンス、オペラ、造形美術、演劇と美術の境界を横断するパフォーマンスなど多数にわたる前衛作家として世界的に高名。主な作品に、'84年、ヴェネツィア・ビエンナーレで発表した『劇的狂気』、『わたしは血』(2001年、タンホイザー) (2004年)など。

ヤン・ファール テキスト・舞台美術・振付

NEW

『わたしは血 JE SUIS SANG』～中世妖物語～

人間の本质は、中世以来、変わっていない! 「血」をテーマに描き出される人間の本性。ヤン・ファールが、美術家としての才能を遺憾なく発揮した舞台は、どのシーンをとっても絵画のように美しい、アヴィニョン演劇祭を震撼させた衝撃作品だ。

【日時】2007年2月16日(金) 開演 19:30
17日(土) 開演 16:00 / 18日(日) 開演 16:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

【演出】俳優、ダンサー、ミュージシャン 23名

【出演】俳優、ダンサー、ミュージシャン 23名

【チケット(税込)】 一般 S席7,000円 A席5,000円 学生 A席3,000円
メンバーズ S席6,300円 A席4,500円

【発売日】メンバーズ 11月25日(土) 一般 12月2日(土)

一年を美しい旋律でスタート!

埼玉会館 ニューイヤー・コンサート

実力と人気を兼ね備えたソリストを迎えてお届けする埼玉会館だけの新春祝賀コンサートは、新年を飾るのにふさわしい華麗な旋律とハーモニーが楽しめます。指揮者とソリストからのメッセージに、早くも期待が高まる。

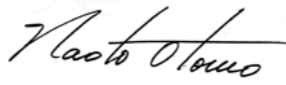


大友 直人 [指揮] Naoto Otomo, Conductor

MESSAGE

新年のお祝いコンサートといえば「ワルツ」「ホルカ」「オペレッタ」それら全てを1日で楽しめるのが「埼玉会館ニューイヤー・コンサート」です。曲目は「ワルツ王」と称えられているJ.シュトラウスIIの曲目を中心に、舞踏会でおもわず踊りたくなるような華やかな曲ばかりでございます。ソプラノに鈴木慶江さん、テノールに中鉢聡さんをお迎えして、この埼玉会館を「新年の祝賀」気分ですごす事が出来れば幸いです。埼玉会館には是非足をお運び頂き、「優雅な気分」でお楽しみください。

●PROFILE 1958年東京生まれ 桐朋学園大学卒業 指揮を小澤征爾 秋山和慶 尾高忠明 岡部守弘の各氏に師事 22歳でNHK交響楽団を指揮してデビュー 以来、日本の主要オーケストラの定期演奏会・特別演奏会を指揮 86～88年日本フィル正指揮者 86～89年大阪フィル指揮者を経て 91年東京交響楽団正指揮者 2004年同団常任指揮者に就任。また、京都市交響楽団常任指揮者兼アーティストティック・アドバイザー 東京文化会館音楽監督を歴任。



鈴木 慶江 [ソプラノ] Norie Suzuki, Soprano

MESSAGE

新しい年の幕開けを、皆さまと一緒に迎えることができますことをとても楽しみにしております。埼玉は高校時代に声楽の道を志した時に初めてのレッスに通った場所であり、また教鞭をとっている東邦音楽大学があたりと私にとって何かと馴染み深い地域です。その埼玉で今年最初のアリアを中鉢聡さんと東京交響楽団と共に響き歌える事はとても光栄です。皆さまにお会いできる日を楽しみに.....。

●PROFILE 神奈川県横須賀市出身 東京芸術大学卒業及び、同大学院修了 1999年G.ニコリーニ国立音楽院(イタリア)に留学。第31回V.ベッリーニ国際声楽コンクール 最高位受賞を始め数多くのコンクールで受賞 2002年大晦日にはNHK「紅白歌合戦」および翌年のNHK「ニューイヤー・オペラコンサート」に初出演を果たし、注目を集めた。現在はイタリアを中心に活動し、その活躍は同地の新聞にも取り上げられている。東邦音楽大学特任講師・ミラノ在住 <http://www.toshiba-emi.co.jp/classic/norie/>



中鉢 聡 [テノール] Satoshi Chubachi, Tenor



MESSAGE

年明けに相応しい華やかなコンサートです! 美しいメロディーや楽しい曲ばかりですから、普段クラシックはあまり...というお客様にも是非お勧めです! 年の始めを皆さんがハッピーに迎えていただけるように、ハイテンションで頑張ります!

●PROFILE 秋田県湯沢市出身 東京芸術大学卒業 ロッシーニ国際オペラコンクール入選 1995年藤原歌劇団公演《椿姫》でデビューし 96-97年渡伊 帰国後、新国立劇場開場記念公演《建・TAKERU》や《こうもり》等のオペラに出演 藤原歌劇団公演では《椿姫》《ロメオとジュリエット》等に主演し好評を博す。またオーケストラとの共演や、国際サッカー試合での国歌独唱、TV・ラジオなどに出演し好評を博している 藤原歌劇団団員。



東京交響楽団 [管弦楽]

Tokyo Symphony Orchestra

1946年創立 51年東京交響楽団と改称して今日に至る 秋山和慶が桂冠指揮者を務め、音楽監督にユベール・スターン 常任指揮者に大友直人、正指揮者に飯森範親を擁する 49年第1回毎日音楽賞 98年サントリー音楽賞等 数々の賞を受賞 2002年川崎市とフランチャイズ契約を結び、04年に開館したミューザ川崎シンフォニーホールを拠点に活動の場を拡げている。 <http://www.tokyosymphony.com>

【曲目】

- J.シュトラウスII:喜歌劇《こうもり》序曲
- レハール:喜歌劇《メリー・ウィドウ》より ヴィリアの歌「昔ヴィリアがいた..」(S)
- J.シュトラウスII:喜歌劇《ジプシー男爵》より バリンカイの歌「見捨てられたが陽気な世界をさまよった」(T)
- レハール:喜歌劇《メリー・ウィドウ》より 唇は語らずとも(S&T)
- J.シュトラウスII:ワルツ《美しく青きドナウ》トリッチ・トラッチ・ホルカ アンソーン・ホルカ・ホルカ(狩)
- ピチカート・ホルカ(ヨーゼフとの共作)ホルカ《雷鳴と稲妻》
- レハール:喜歌劇《ジュディッタ》より 私の唇に(S) 喜歌劇《微笑みの国》より 君はわが心のすべて(T)
- J.シュトラウスII:喜歌劇《こうもり》より チャールダーシゴ「ふるさとの調べよ」(S)
- ジーン・スキーン:ウィーンわが夢の街(T)

埼玉会館 ニューイヤー・コンサート

【日時】2007年1月13日(土) 開演 15:00

【会場】埼玉会館 大ホール

【出演】大友直人(指揮) 鈴木慶江(ソプラノ) 中鉢聡(テノール) 東京交響楽団(管弦楽)

【チケット(税込)】好評発売中
一般 S席 5,000円 A席 4,000円 B席 3,000円 学生 B席 2,000円
メンバーズ S席 4,500円 A席 3,600円 B席 2,700円



ピアニスト100

音楽監督:中村紘子
彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

100人を聴く10年・フィナーレに向けていよいよカウントダウン!

1997年からの10年で100人のピアニストを聴くという壮大な名物企画「ピアニスト100」シリーズ。後半の第51回(2002年4月)からは日本が誇る世界的ピアニスト中村紘子さんを音楽監督に迎えて、バラエティに富んだ人選でご紹介してきたが、最終年の今年、折り返し点を過ぎ、フィナーレに向けていよいよカウントダウンに入った。

98人目は、いよいよスター・ピアニスト・アルカディ・ヴォロドスが登場。その聴き所を、音楽評論家の諫山隆美氏が案内する。

Arcadi Volodos



98/100 アルカディ・ヴォロドス(ロシア)

驚異的・超人的なピアニズム 世界を席巻するヴィルトゥオーゾ

【日時】12月9日(土) 開演 16:00

【曲目】
シューベルト:《楽興の時》Op.94 D.780より 第1曲・第2曲・第5曲・ピアノ・ソナタ第11番 へ短調 D.625
リスト:《巡礼の年第1年 スイス》より《オーベルマンの谷》《巡礼の年第2年 イタリア》より《婚礼》
《伝説》より《小鳥に説教するアッジの聖フランチェスコ》《詩的で宗教的な調べ》より《葬送》

★中村紘子音楽監督によるトーク付き

【チケット(税込)】好評発売中

一般 S席 5,000円 A席 4,000円 学生 S席 3,000円 A席 2,000円
メンバーズ S席 4,500円 A席 3,600円

●PROFILE 1972年サント・ペテルブルク生まれ サント・ペテルブルク音楽院で声楽と指揮法を学んだ後、87年ようやく本格的なピアノの専門教育を受け始めた ヴァリーナ・エギアザロフ・ジャック・ルヴィエ・デミートリ・バシキーロフの各氏に師事 96年ニューヨーク・デビューを皮切りに世界的な活動をスタート。世界の主要なオーケストラ・著名な指揮者との共演・リサイタルなどで絶賛された。2002年のザルツブルク音楽祭デビューは鮮烈で、以後毎夏のザルツブルクに欠かせない存在となった。CDもいずれも評価が高く、天才の呼び声をほいほいに活躍を続けている。

2006年最後の「ピアニスト100」シリーズは第98回を数え、あのアルカディ・ヴォロドスが登場する。今や世界の重要なコンサートで客席を埋め尽くす数少ないピアニストとして、世界中の注目を浴びるビッグ・アーティスト。2004年の日本デビューではベートーヴェンのソナタを本格的に聴かせる一方で、自編曲として名高いモーツァルトのトルコ・マーチを凄まじいテクニックで圧倒し、その強烈なインパクトは期待を大きく上回るものであった。

さて今回のプログラムは、前回のテクニックの印象とは大きく異なり、奏するよりも歌うことに主眼を置いた作品で統一されている。今回の公演は開催が告げられてしばらくプログラムが発表されていなかったため、ヴォロドス自身、慎重に検討しての決定なのだろう。恐らく大枠が決定した後も、1曲1曲吟味しながら選曲されたと思われる。前半のプログラムにはシューベルトの小品とソナタ、しかも《楽興の時》には有名な第3番を含まず、ソナタは演奏される機会の少ないへ短調の曲と、ある意味大胆な選曲である。有名だから聴いて楽しいという一般的な聴衆の反応に依存するよりも、演奏そのもので勝負したいという気迫が感じられる。後半のリストは技巧より、じっくり歌い語るタイプの曲の範囲内でバラエティを考慮したのであろう。《小鳥に...》のトレモロ《葬送》後半のオクターヴ以外は、ゆったりとしたメロディが主体となるシューベルト風のピアノ曲で、表情と表現力が大いに要求されるものばかり。ヴォロドスの自信に満ち溢れた選曲と言えるだろう。大いに楽しみである。文・諫山隆美(音楽評論家)

NEXT 次回公演のご案内

99/100 レイフ・オヴェ・アンズネス

Leif Ove Andsnes(ノルウェー)



●PROFILE 1970年ノルウェーのカルメイ生まれ ベルゲン音楽院でチェコ出身のイルジー・フリンカ氏に師事 90年代初めに世界の楽壇にデビューして以降、一流オーケストラ・指揮者との共演・リサイタル・室内楽にも取り組む。揺るぎない演奏活動を通じて聴衆の共感と興奮を呼び起こしている。リゾール音楽祭の共同芸術監督として世界的なアーティストをノルウェーに招く一方、自身もヨーロッパ各地の音楽祭の常連である。レコーディングも数多く、3度のグラモフォン・アワード受賞歴を持つ。2002年ノルウェーで最高の栄誉とされる聖オラフ・ロイヤル・ノルウェー上級勲章を受ける。

【日時】2007年2月10日(土) 開演 16:00

【曲目】
シベリウス:キュリッキ - 3つの抒情的小品 Op.41
グリーグ:ノルウェー民謡による変奏曲形式のパラード 短調 Op.24
シェーンベルク:6つの小さなピアノ曲 Op.19
ベートーヴェン:ピアノ・ソナタ第32番 へ短調 Op.111
★中村紘子音楽監督によるトーク付き

【チケット(税込)】好評発売中

一般 S席 4,000円 A席 3,000円
学生 S席 2,000円 A席 1,000円
メンバーズ S席 3,600円 A席 2,700円

PICK UP では紹介しきれなかった公演情報 EVENT INFORMATION

MUSIC

12.3 小山実稚恵 ピアノ・トリオ 夢の響演

人気ピアニストの小山実稚恵が当劇場では4年ぶりにヴァイオリンの堀米ゆず子 チェロの堤剛とともに登場します。華麗なる音の響演」ともいえる夢のような組み合わせでのピアノ・トリオ。しかも ベートーヴェンとチャイコフスキーの名曲中の名曲によるプログラムです。どうぞお聴き逃しなく!



- ◆12月3日(日) 開演 15:00
◆彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
◆曲目:ベートーヴェン:ピアノ三重奏曲第7番 変ロ長調 Op.97 「大公」
◆出演:小山実稚恵(ピアノ) 堀米ゆず子(ヴァイオリン) 堤剛(チェロ)
◆チケット(税込) 発売中
一般 S席4,000円 A席3,000円 学生A席1,000円
メンバーズ S席3,600円 A席2,700円

12.16 バッハ・コレギウム・ジャパン モーツァルト《レクイエム》

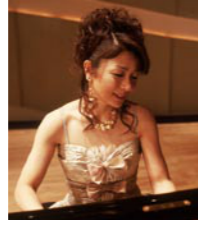
日本が世界に誇るバッハ・コレギウム・ジャパンが満を持して初めて本格的に取り上げるモーツァルト 生誕250年の記念年を締めくくるにふさわしく、夕の祈りのための音楽・ヴェスプレと 絶筆となったレクイエムのカップリングでお届けします。



- ◆12月16日(土) 開演 16:00
◆彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
◆曲目:モーツァルト:証聖者の荘厳な晩課(ヴェスプレ)ハ長調 K339
◆出演:鈴木雅明(指揮) 森 麻季(ソプラノ) マリアンネ・ベアテ・キアラント(アルト)
◆チケット(税込) 発売中
一般 S席8,000円 A席7,000円 学生A席2,000円
メンバーズ S席7,200円 A席6,300円

2007.3.4 NEW 仲道郁代 ピアノ・リサイタル ~デビュー20周年を記念して~

彩の国さいたま芸術劇場でのベートーヴェンのピアノ・ソナタ全曲リサイタル・コンサートはもうそろそろ 埼玉会館ファミリー・クラシックでの名演が記憶に新しい仲道郁代 デビュー20周年の今シーズン 埼玉公演だけのオール・ショパン・プログラムでお届けします。



- ◆2007年3月4日(日) 開演 15:00
◆彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
◆曲目:~オール・ショパン・プログラム~
◆チケット(税込)一般 S席4,000円 A席3,000円 学生A席1,000円
◆発売日:メンバーズ 12月2日(土) 一般 12月9日(土)

12.3 ~ 源氏語り54帖 苦渋に満ちた黄昏の時

身近な言葉で難解な古典文学を現代にのみがえらせる三田村雅子の解説とく「生きた古典の言葉」で語る幸田弘子の朗読で、源氏物語54帖すべてを読み解いていく壮大なシリーズ 栄華を極めた光源氏もいよいよ人生黄昏の時を迎えます。



- ◆第34回 12月3日(日) 「横笛」
◆第35回 2007年1月13日(土) 「鈴虫」
◆第36回 2007年3月11日(日) 「夕霧」 各回 開演 14:00
◆彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
◆出演:幸田弘子(朗読) 三田村雅子(解説:フェリス学院大学教授)
◆チケット(税込) 発売中
全席指定 1回券 2,500円 第34~36回連続券 6,600円

AT RANDOM

12.8 彩の国さいたま寄席 四季彩亭 ~年末落語会

師走の寄席には 笑点でもおなじみの春風亭昇太と 熱血落語家林家彦いちが登場します。SWA(創作落語協会)のメンバーとして 新作落語にも熱心に取り組んでいるお二人の高座は抱腹絶倒間違いなし。今年の笑い納めはぜひ彩の国さいたま寄席で。



- ◆12月8日(金) 開演 19:00 ◆彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
◆春風亭昇太 林家彦いち ほか
◆チケット(税込) 発売中
一般 ¥3,000 メンバーズ ¥2,700 ゆうゆう割引(学生・65歳以上) ¥2,000

2007.2.23 NEW 彩の国さいたま寄席 四季彩亭 ~受賞者の会

年明けの寄席は 昨年度彩の国落語大賞を受賞した柳家三太楼改め三遊亭遊雀が登場。ソフトな語り口で癒し系の芸風は 同世代の落語家の中で異彩を放ちます。三遊亭小遊三門下で再出発 心機一転して高座を務めます。ゲスト出演は三笑亭夢之助と柳家喬太郎。どうぞお楽しみに。

- ◆2007年2月23日(金) 開演 19:00 ◆彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
◆三遊亭遊雀 三笑亭夢之助 柳家喬太郎(ゲスト) ほか
◆チケット(税込)一般 ¥3,000 メンバーズ ¥2,700
◆ゆうゆう割引(学生・65歳以上) ¥2,000
◆発売日:メンバーズ 12月2日(土) 一般 12月8日(金)

2007.2.10-11 彩の国シネマスタジオ『かもめ食堂』

「かもめ食堂」それはフィンランドのヘルシンキの街角に「日本人女性のサチエが営む小さな日本食の店」客のない毎日だったが ある日、日本アニメ大好き青年トミが訪れ 偶然の出会いから3人の日本人女性が「かもめ食堂」に集まることになり……。邦画初のオール・フィンランド撮影。



- ◆2007年2月10日(土)・11日(日) 10:00 / 12:45 / 16:00 / 19:00
◆12:45 上映回終了後、ゲストトークあり。
◆彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール
◆原作:群ようこ 脚本・監督:荻上直子 エンディングテーマ:井上陽水
◆出演:小林聡美 片桐はいり もたいまさこ ユルコ・ニエミ・タリア・マルクス・マルック・ベルトラ ほか (2005年/日本/102分)
◆チケット(税込) 発売中
全席自由 前売 一般1,000円 高校生800円 当日 各200円増

2007.3.10 彩の国シネマスタジオ『トランスアメリカ』

性同一障害のために男から女への最後の手術を受けようとしているブリー「彼女」の前に 少年トビーが現れる。少年は、ブリーの実の息子だった。そして、ついに二人の米大陸横断の旅が始まる。ブリーは、自分が実の父親であることを隠したまま、トビーは父親を探すために……。



- ◆2007年3月10日(土) 10:00 / 12:45 / 16:00 / 19:00
◆12:45 上映回終了後、ゲストトークあり。
◆彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール
◆監督・脚本:ダンカン・タッカー 製作総指揮:ウィリアム・H・メイシー
◆出演:フェリシティ・ハフマン・ケヴィン・ゼガーズ・フィオヌラ・フラナガン・エリザベス・ペーニャ・キャリー・プレストン ほか (2005年/アメリカ/103分)
◆チケット(税込) 発売中
全席自由 前売 一般1,000円 高校生800円 当日 各200円増 (R15)

CINEMA

発売中及び近日発売のすべての公演情報

EVENT CALENDAR

PLAY

2007.1.23 彩の国シェイクスピア・シリーズ第16弾 『コリオレイナス』
◆2007年1月23日(火)~2月8日(木)全20公演
◆彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
◆詳細はP.9にて

2007.3.16 彩の国シェイクスピア・シリーズ第17弾 『恋の骨折り損』
◆2007年3月16日(金)~31日(土)《全18公演》
◆彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
◆詳細はP.10にて

DANCE

2007.1.12 『ゼロ度 zero degrees』
◆2007年1月12日(金)~14日(日)
◆彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
◆詳細はP.11にて

2007.2.16 『わたしは血 JE SUIS SANG』
◆2007年2月16日(金)~18日(日)
◆彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
◆詳細はP.13にて

MUSIC

12.3 小山実稚恵 ピアノ・トリオ 夢の響演
◆12月3日(日)
◆彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
◆詳細はP.16にて

12.9 ピアニスト100 No.98 アルカディ・ヴォロドス Arcadi Volodos(ロシア)
◆12月9日(土)
◆彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
◆詳細はP.15にて

12.16 バッハ・コレギウム・ジャパン モーツァルト《レクイエム》
◆12月16日(土)
◆彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
◆詳細はP.16にて

12.16 光の庭プロムナード・コンサート 午後の室内楽
◆12月16日(土) 開演14:00
◆彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ
◆出演:東京交響楽団メンバーによる弦楽四重奏
◆入場無料



2007.1.13 埼玉会館 ニューイヤー・コンサート
◆2007年1月13日(土) ◆埼玉会館 大ホール
◆詳細はP.14にて

2007.2.10 ピアニスト100 No.99 レイフ・オヴェ・アンズネス Leif Ove Andsnes(ノルウェー)
◆2007年2月10日(土)
◆彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
◆詳細はP.15にて

2007.3.4 NEW 仲道郁代 ピアノ・リサイタル ~デビュー20周年を記念して~
◆2007年3月4日(日) 開演 15:00
◆彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
◆発売日:メンバーズ 12月2日(土) 一般 12月9日(土)
◆詳細はP.16にて

COMMUNICATION (入場無料)

12.9 NEW 「talk・talk・talk」第4回
◆12月9日(土) 13:00~(約1時間)
◆彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
◆詳細はP.18にて

2007.1.8 NEW 蜷川幸雄公開対談 NINAGAWA千の目 第7回
◆2007年1月8日(月・祝)
◆彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
◆詳細はP.18にて

2007.1.20 NEW 光の庭プロムナード・コンサート オルガン・ミニ・コンサート
◆2007年1月20日(土) 開演14:00
◆彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ
◆出演:浅井寛子(オルガンとおはなし) 久松洋三(マンドリン)
◆入場無料



AT RANDOM

12.3 ロイス・グリーンフィールド ダンス写真展 『AIRBORNE エアボーン ~空中のポエジー』
◆開催中~12月3日(日)劇場休館日を除く
9:00~22:00
◆彩の国さいたま芸術劇場 ガレリア
◆展示点数50点 ◆入場無料



AT RANDOM

12.3 源氏語り54帖 苦渋に満ちた黄昏の時
◆第34回 12月3日(日) 「横笛」
◆第35回 2007年1月13日(土) 「鈴虫」
◆第36回 2007年3月11日(日) 「夕霧」
◆彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
◆詳細はP.16にて

12.8 彩の国さいたま寄席 四季彩亭 ~年末落語会
◆12月8日(金)
◆彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
◆詳細はP.16にて

2007.2.23 NEW 彩の国さいたま寄席 四季彩亭 ~受賞者の会
◆2007年2月23日(金) 開演 19:00
◆彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
◆発売日:メンバーズ 12月2日(土) 一般 12月8日(金)
◆詳細はP.16にて

CINEMA

12.9 彩の国シネマスタジオ『ホテル・ルワンダ』
◆12月9日(土)
開演10:00 / 12:40 / 16:00 / 19:00
◆12:40 上映回終了後、ゲストトークあり。
◆彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール
◆監督:テリール・ジョージ 出演:ドン・チードル ソフィー・オコネー ニック・ノルティ ホアキン・フェニックスほか (2004年/南アフリカ=イギリス=イタリア/122分)
◆チケット(税込)全席自由 前売 一般1,000円 小中高生800円 当日 各200円増



2007.1.13 彩の国シネマスタジオ『白バラの祈り』
◆2007年1月13日(土)
開演10:00 / 12:45 / 16:00 / 19:00
◆12:45 上映回終了後、ゲストトークあり。
◆彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール
◆監督:マルク・ローランド 出演:ユリア・イェンチ、アレクサンダー・ヘルト、ファビアン・ヒンヌアリス、アンドレ・ヘニクほか (2005年/ドイツ/121分)
◆チケット(税込)全席自由 前売 一般1,000円 小中高生800円 当日 各200円増



2007.2.10 彩の国シネマスタジオ『かもめ食堂』
◆2007年2月10日(土)・11日(日)
◆彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール
◆詳細はp.16にて

2007.3.10 彩の国シネマスタジオ『トランスアメリカ』
◆2007年3月10日(土)
◆彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール
◆詳細はp.16にて

「NINAGAWA 千の目」&「talk・talk・talk」

蜷川幸雄がホストとして彩の国さいたま芸術劇場に様々なお客様をお迎えし、公開対談をしている「NINAGAWA 千の目(まなざし)」のシリーズと、アーティストと共に蜷川が刺激的な対話を公開で展開する「talk・talk・talk」のシリーズ共に毎回、好評をいただいているが、11月からの顔ぶれも興味深い人たちが揃う。来年早々に、同劇場で上演する、蜷川演出の『コリオレイナス』に出演する女優の白石加代子さん。演出家として、海外での活動も積極的な、宮本亜門さん。表現者として、今、蜷川が注目しているダンサーの森山開次さんと、いずれも聞き逃せない対談が期待できそうだ。

「NINAGAWA 千の目」

第6回
演出家 蜷川幸雄 ×
女優 白石加代子



KAYOKO SHIRAISHI

【日時】11月23日(木・祝)
開演 13:00 (約1時間)

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール

【定員】150名 *募集期間は終了しています。

早稲田小劇場(SCOT)を経て現在に至る、舞台を中心に映像でも活躍、主な舞台出演作品に『劇的なものをめぐって- II』『トロイアの女』『東海道四谷怪談』『パッパの信女』『クリテムストラ』『悲劇』『桜の園』、現代能『鷹井』、『メアリー・スチュアート』『常陸坊海尊』『ミザリー』『8人で探すリア王』『グリアクス』『おやすみ、母さん』『リア王- 影法師-』など、蜷川演出作品に『夏の夜の夢』『身毒丸』『ベリクリーズ』『グリアクス』『天保十二年のシェイクスピア』がある。又、連続企画『百物語』『源氏物語』を行っている『百物語』は海外でも評価が高い。観世寿夫記念法政大学能楽賞受賞、第1回・第3回読売演劇大賞優秀女優賞、スホニチ文化芸術大賞優秀賞、芸術選奨文部科学大臣賞など数々の賞を受賞。2005年紫綬褒章受章。07年彩の国シェイクスピア・シリーズ第16弾『コリオレイナス』への出演が決定。

第7回
演出家 蜷川幸雄 ×
演出家 宮本亜門



AMON MIYAMOTO

【日時】2007年1月8日(月・祝)
開演 13:00 (約1時間)

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 小ホール

【定員】346名(入場無料)

1958年生まれ、東京都出身。出演者、振付師を経て2年間ロンドン・ニューヨークに留学。帰国後の1987年にオリジナルミュージカル『アイ・ガット・マーマン』でデビュー。翌88年には、同作品で『昭和63年度文化庁芸術祭賞』を受賞。ミュージカルのみならず、ストリートプレイ、オペラ等、現在最も注目される演出家として、活動の場を広げている。2004年秋には、ニューヨークのオンブロードウェイにて『太平洋序曲』を東洋人初の演出として手がけ、05年同作はトニー賞の4部門でミネートされる。今年は5月~6月ミュージカル『イントゥーザウッズ』、6月~7月リーディング・ドラマ『V.M. ~ヴァギナ・モノログス』、9月オペラ『フィガロの結婚』、11月オペラ『コジ・ファン・トゥッテ』を上演。07年は1月ブロードウェイ・ミュージカル『スウィーニートッド』を上演予定。

「talk・talk・talk」第4回



演出家 蜷川幸雄 ×
ダンサー 森山開次
KAIJI MORIYAMA

【日時】12月9日(土) 開演 13:00 (約1時間)

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 小ホール

【定員】346名(入場無料)

1973年生まれ、21歳でダンスを始める。国内外の多数のダンス公演に参加し、なやかなりながら直線的で、空間を切り裂くような独特の表現に定評があり、2001年エジンバラフェスティバルにて「今年最も才能あるダンサーの1人、彼1人のために観にくく価値あり(『スコットマン誌』)と評された後、ソロ活動開始。神社境内での公演等実験的な活動と、和の素材を用いた独自の作品世界で知られ、特に能を題材とした『弱法師』『OKINA』で各媒体から評を集める。2005年1月ニューヨークにて発表「驚異のダンサーによる驚くべきダンス(ニューヨークタイムズ紙)」と評されたソロ作品『KATANA』で、本年9月初の全国5箇所ツアーを終了。来年以降海外での上演を予定している。ダンス公演のみならず、映画『茶の味』『ナイスの森』出演。2004年よりNHK教育「からだであそぼ」レギュラー。演劇『スケリア』のタイトルロール、TVCF、写真作品への参加等、幅広い分野での身体表現に積極的に挑戦。今もつと注目の男性アーティストの1人である。

チケットの購入方法について

窓口 販売
各会場(彩の国さいたま芸術劇場、埼玉会館、熊谷会館)チケット販売窓口にて、3会場のチケットをお買い求めいただくことができます。

窓口営業時間
彩の国さいたま芸術劇場 10:00~19:00(休館日を除く)
埼玉会館 10:00~19:00(休館日を除く)
熊谷会館 10:00~17:00(休館日を除く)

電話 予約&販売
チケットの電話でのご予約は、財団チケットセンターにて承っております。
※埼玉会館、熊谷会館ではチケットの電話予約は行っていません。

チケットセンター営業時間
財団チケットセンター
048-858-5511 10:00~19:00(休館日を除く)

インターネット販売
ホームページ(<http://www.saf.or.jp/>)から、空席状況の検索、チケットの購入ができます。

インターネット営業時間
メンバーズ優先予約は初日の10時より、一般発売も初日10時より受付開始し、公演前日の19時に発売は終了いたします。

チケット代の支払い方法

- 窓口 現金、クレジットカード
- 電話 現金、クレジットカード、コンビニエンスストア振込
- インターネット クレジットカードのみ
 - ・コンビニエンスストア振込でのお支払いの場合、入金確認後、チケットを発送いたします。
 - ・お支払いいただく代金は、チケット代金+セキュリティバック代(400円)になります。
 - ・各館で、電話予約済みのチケットをご精算、お引き取りいただけます。
 - ・当日券のご精算にもクレジットカードをご利用いただけます。
- メンバーズは口座引落になります。

セット券、連続券、学生券などの割引サービスについて

- セット券・連続券は、原則として前売りのみ(開催日の前日まで)のお取り扱いです。
- 学生券をご利用の際は、チケット購入時・公演当日とも学生証をご持参ください。
- 各種チケット割引サービスは併用できません。

ご注意及びお願い事項

- チケット発売初日の窓口での購入枚数、お電話でのご予約枚数を制限させていただく場合がございます。チケット発売初日の電話予約は1度のお電話で、1公演のみに制限させていただきます。また、チケット発売初日はお席のご案内はいたしておりません。あらかじめご了承ください。
- チケットご予約後のキャンセル・変更・再発行は一切行っておりません。
- チケット紛失の際は、チケットセンター(電話:048-858-5511)にお問い合わせください。

■サポート企業一覧(H18.9.29現在)

(株)与野フードセンター / (株)亀屋 / 武州ガス(株) / (株)エフテック / (株)松本商会 / (株)香山壽夫建築研究所 / 埼玉新聞社 / (株)テレビ埼玉ミュージック / 金井大道具(株) / 埼玉りそな銀行 県庁支店 / (株)パシフィックアートセンター / アサヒ印刷(株) / FM NACK5 / 東京電力(株)埼玉支店 / 東京瓦斯株式会社都市エネルギー事業部 / 埼玉県信用農業協同組合連合会 / カヤバシステム マシナリー(株) / (株)八木橋 / (株)タムロン / (株)オメダム / (株)十万石ふくさや / 森平舞台機構(株) / 日本データコム(株) / (株)ビルメン / 東芝ライテック(株) / 埼玉トヨタ自動車(株) / リズム時計工業(株) / (有)齋賀設計工務 / クレディ・アグリコル アセットマネジメント(株) / ソシエテジェネラルアセットマネジメント(株) / (株)スズセン / (株)武蔵野銀行 / 浦和ロイヤルパインズホテル / 株式会社 アルピーノ / 国際照明株式会社 / 株式会社 松永建設 / (株)サイサン 会長川本 宣彦 / 三国コカ・コーラボドリング株式会社 / あいおい損害保険株式会社 埼玉営業部 / 株式会社 ショーモン / 埼玉スバル自動車株式会社 / 株式会社 木下フレンド / 株式会社 東玉 / 桶本興業株式会社 / 株式会社 佐伯紙工所

(財)埼玉県芸術文化振興財団 メンバーズ特典

彩の国さいたま芸術劇場、埼玉会館、熊谷会館共通のメンバーズに入会すると、「便利」で「楽しい」特典がもれなく付いてきます。

年会費:2,000円

メンバーズ料金
財団主催公演で3,000円以上のチケットは10%OFF

財団情報誌
彩の国さいたま芸術劇場、埼玉会館、熊谷会館で行われる公演情報が掲載されている、情報誌がお手元に届きます。

優先予約
一般発売日より早く、チケットをご予約いただけます。

プレオーダー
人気公演はメンバーズの優先予約に先駆けてプレオーダー。
※指定席の場合、お席は抽選になります。

レストランでの割引
彩の国さいたま芸術劇場、埼玉会館、熊谷会館のレストランでのお食事が2名様までが10%OFF。

ポイント制度
チケットを購入するとポイントが貯まります。貯まったポイントはチケットと交換することができます。※チケット購入金額10円につき1ポイント。1ポイント1円にて換算されます。

キャッシュレス
チケット代金、年会費のお支払いは、ご登録いただいた口座からの口座引落になります。

チケットの安心無料送付
ご購入いただいたチケットは、セキュリティバックにてお届けいたします。

その他
ジョン・レノン・ミュージアム(TEL 048-601-0009)への入場料金が割引になります。
大人 1,500円→1,300円
高大生 1,000円→800円
小中学生 500円→400円

表紙 ヤン・ファールプ テキスト・舞台美術・振付
『わたしは血 JE SUIS SANG』
©Wongje Bergmann

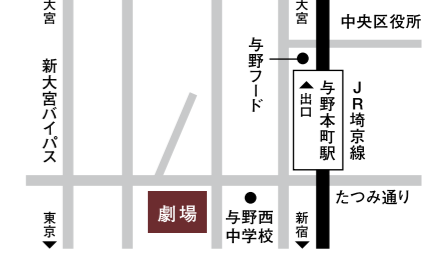
裏表紙 パッパ・コレグウム・ジャパン
©K.Miura ©shuto mikio ©Yuji Hori

編集 鴨澤卓子



発行日:2006年11月15日
禁断断断断
©(財)埼玉県芸術文化振興財団
Published on 15.September 2006
All Rights Reserved
by Saitama Arts Foundation

彩の国さいたま芸術劇場



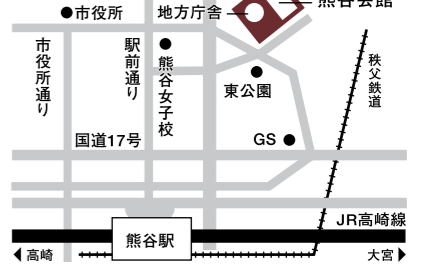
〒338-8506 埼玉県さいたま市中央区上峰3-15-1
電話:048-858-5500(代) ファックス:048-858-5515
電車でのアクセス JR埼京線与野本町駅(西口)下車 徒歩7分
または①番乗り場からバス
新宿から快速で27分、各駅停車で36分
大宮から快速で4分、各駅停車で6分(通勤快速は停車しません。)
駐車場 155台 最初の1時間無料 それ以降は300円/時間
※駐車台数に限りがあり、劇場周辺にも一般の駐車場はございませんので、ご来場の際はなるべく公共交通機関をご利用ください。

埼玉会館



〒330-8518 埼玉県さいたま市浦和区高砂3-1-4
電話:048-829-2471(代) ファックス:048-829-2477
電車でのアクセス JR京浜東北線浦和駅(西口)下車 徒歩6分
上野駅から各駅停車で27分 大宮駅から各駅停車で8分
駐車場 39台(うち車イス専用駐車場2台) 300円/時間 高さ2mまで
※駐車台数に限りがありますので、ご来場の際はなるべく公共交通機関をご利用ください。

熊谷会館



〒360-0031 埼玉県熊谷市末広3-9-2
電話:048-523-2535 ファックス:048-523-2536
電車でのアクセス JR高崎線熊谷駅(北口)下車 徒歩15分
大宮駅から37分
自動車でのアクセス 関越自動車道東松山インターより16Km
※無料駐車場あり。ただし、地方庁舎と合同の駐車場なので、催事によっては駐車できない場合もあります。ご来場の際はなるべく公共交通機関をご利用ください。

子供たちの夏休みアート体験報告

“げいじゅつ”っておもしろい!

彩の国シェイクスピア・シリーズや海外でも話題のダンスといった各種公演だけでなく、財団法人埼玉県芸術文化振興財団では、地域とともに舞台芸術の芽を育む普及教育事業を行っている。特に7～8月は子供たちのためのプログラムがたくさんあり、多くの参加者を得て好評だった。そこで実際にどんなことが行われたのかをご報告。多くのプログラムは今後も続けていくので、知っておけば手軽に芸術を体験する手だてにもなるはずだ。

子供たちが一流の音楽に触れる機会をつくる

「MEET THE MUSIC アーティストが学校にやってくる！」

財団法人埼玉県芸術文化振興財団が実施している様々な普及教育事業の中でもユニークなのが「アウト・リーチ」と呼ばれている事業だ。つまり劇場にお客様が来るのを待つだけでなく、こちらから出向いていくという企画「MEET THE MUSIC アーティストが学校にやってくる!」はそのタイトルどおり、アーティストが学校まで出向き、体育館や講堂などでコンサートを行うもの。対象は埼玉県内の小・中学校。昨年から始め、好評を得たところから、今年も10校を訪問する。その中で、今夏は世界で活躍するパーカッションスト、加藤訓子さんが小学校3校を訪問した。加藤さんのソロ演奏あり、お話しあり、そしてパチと手拍子によるリズム体験ありと、学校の体育館が素敵なステージへと変わり、子供たちも大喜び。以下の子供たちの感想文からは、そんな子供たちの喜びが伝わってくる。「もつきんをすごくきれいにひいていた、たいこもすごいおとだったよ!」(1年生)「楽器の始まり」の話を聞いて、初めて『いろんな音があるんだな』と思いました。(3年生)「私は、音楽って不思議だなと思いました。悲しい音楽や楽しい音楽や、やさしい音楽、いろんな音楽があつてとても心が楽しくなってきました!」(5年生)普段、なかなか本格的な音楽に触れることの少ない子供たちにも、いいものを味わってもらい、またとない機会となったようだ。



パチを使ってリズム感のレッスン みんな楽しそう!

【実施日】7月11日(火)・13日(木)・14日(金)
【出演】加藤訓子(パーカッションとおはなし)
【会場と参加人数】三芳町立竹間沢小学校 約350人
さいたま市立尾間木小学校 約828人
上尾市立西小学校 約360人

音楽を楽しむとともにオルガンの仕組みを知る 「光の庭プロムナード・コンサート オルガン・ミニ・コンサート」



ポジティブ・オルガンの中には、パイプや色々なパーツがいっぱい。

「光の庭プロムナード・コンサート」は、彩の国さいたま芸術劇場内の情報プラザで、年10回行っている、定例のコンサート。吹き抜けから気持ちよく日光が降り注ぐこのコンサートは、オルガン・コンサートのほか、東京交響楽団による室内楽の場合もある。無料で楽しめるコンサートとしてすでに人気も高いものだが、今回は夏休みスペシャルということで、特別にワークショップ付きで開催。ポジティブ・オルガンという小型のパイプオルガンの中身をすべて見せてしまおうという企画だ。最初はバラバラの状態のオルガンに、集まって来た子供たちはもちろん、付き添いの親たちもビックリ。オルガンの仕組みを東京芸術大学の太塚直哉さんが説明しながら、オルガン製作者のマテュー・ガルニエさんがそれをどんどん組み立てていく。最後には調律してそのオルガンで実際にデモンストレーションしてみせるという趣向。「組み立てるときはじめて見るものがいっぱいあつておもしろかったです!」(小3 さいたま市)「太塚先生の説明も難しい事をやさしくお話し下さり年齢問わず楽しめた!」(60代女性 さいたま市)小学校低学年のお子様から高齢の方まで楽しんでもらった企画だった。



オルガン・ミニ・コンサートでは、歌とオルガンの美しい響きに聴衆もうつろい。

【実施日】8月19日(土)
【会場】彩の国さいたま芸術劇場内 情報プラザ
【出演】太塚直哉(オルガンとおはなし)
鈴木美登里(ソプラノ)
マテュー・ガルニエ(オルガン製作者)
【参加人数】ワークショップ 110名、コンサート189名

舞台の裏側を楽しく親子で体験できる 「劇場体験ツアー」



スタッフの指導のもと、照明の操作盤を体験! どの子も興味津々だ。

舞台の裏側はどうなっているの? そんな素朴な疑問に答えてくれるのが、この「劇場体験ツアー」。昨年は「劇場冒険ツアー」と題し、好評だった企画を、今年さらにグレードアップ。小学校の子供たちとその保護者を対象に、舞台の裏側まで見せるのだが、ただのバックステージ見学とは違い、ちょっとした仕掛けがあるところがミソ。参加者はその仕掛けにのせられるうちに、照明の仕組みや音響の効果を体験。芝居に興味がある小学校高学年の女の子は、今までは役者志望だったものの、演劇やダンスをより素敵に見せる裏方の仕事にも興味を持ったり、ある保護者も多くのスタッフが裏で舞台を支えていることを実感したという。よく劇場に来る人にも、普段なかなか劇場に足を運ばない人にも、違った観点から見ることで、より劇場が身近な存在になったようだ。ほかにもアンケートにはこんな答えが.....。

「ぶたいのしょうめいとかをいじれておもしろかった!」(小3)
「子供も親も心をひかれる、笑いのたえない楽しいツアーでした!」(保護者)
親子で劇場の秘密を体験できる楽しい劇場ツアーになったようだ。



舞台の上でスタッフから舞台機構の説明を受ける子供たち。

【実施日】8月23日(水)～25日(金) (1日2回 計6回)
【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
【参加人数】236人 【料金】500円

本場のロシアバレエを基礎から学べる

「熊谷会館 クラシックバレエ・セミナー」



フォードロフ先生の熱心な指導に子供たちも真剣なまなざしを向ける。

熊谷会館で新たな事業として行われたのが「熊谷会館クラシックバレエ・セミナー」。熊谷はもともとクラシック・バレエがさかんな土地柄ということで、地元からの要望もあつてこの企画が実現。講師には、元ポリショイ劇場のプリンシパル・ダンサー、ニコライ・フォードロフ氏が招かれた。以前から都内でセミナーを行い、実践的な教え方に定評のある方だ。対象となったのは、最低2年以上バレエ経験のある小学校1年生以上。本場のロシアバレエが学べるとあつて、募集をするやいなや、すぐに定員になってしまったほど。それだけに、参加者たちはみな真剣で積極的な子たちばかり。セミナーには、バレエ・ダンサーの齋藤友佳理さんも通訳として参加。フォードロフ氏の熱心な指導とともに、バレエを学ぶ子供たちにとって憧れの存在である齋藤さんに、手取り足取り教えてもらっ



齋藤友佳理さん(写真左手前)は最高のお手本。

て、みな感激した面持ちだった。どうやればきれいに見られるか、表現できるか、骨格から具体的に、基礎をきちんと教えてくれる内容に、参加者はみな納得したようだ。

「初めから難しいことをやらずに、基礎から学ぶことができてよかった!」(中級クラス参加者)
「普段のレッスンではテクニックの注意は受けるけれども、今回のセミナーでは表現の仕方を教えてもらい、とても勉強になった!」(上級クラス参加者)
一流のプロからしっかりと基礎を学べた貴重な体験となった。

【実施日】8月29日(火)～30日(水) 【会場】熊谷会館
【講師】ニコライ・フォードロフ
【参加人数】63人(女性61人 男性2人) 【料金】8,000円

応募資格
初級クラス 経験2～4年 小学1年生以上
中級クラス 経験5～6年 小学4年生以上
上級クラス 経験7年以上 中学1年生以上

劇場文化の発展に寄与する プロフェッショナル向けのプログラム

普及教育事業は、子供たちや地域の人々だけが対象ではなく、劇場のもう一方の使い手—プロフェッショナル向けのプログラムも様々なものが行われている。その一端を公開。なかには、先々の公演につながっていく企画もあり、意義深いものだ。



無料で一般公開された「中村恩恵と仲間たち」のShowingより。 堀田洋一

財団法人埼玉県芸術文化振興財団は海外から作品を招聘するだけでなく、劇場自らが新しい作品を企画制作するなど、様々な形でコンテンポラリー・ダンスの発展に貢献している。オリジナル作品をつくるために、出演者のオーディションを兼ねたワークショップも開催している。

観るものの想像力を刺激する幻想的な作風で知られるインバル・ピント・カンパニーの芸術監督、インバル・ピントとアヴシャロム・ボラックによるダンス・ワークショップもそのひとつで、来年秋に上演が計画されている新作のための準備の第一歩として行われた。参加者の資格は、16歳以上で、クラシック・バレエ、またはコンテンポラリー・ダンスでの舞台経験が2年以上あるというもの。作品の一部を踊ったり、即興で振りをつけていくインバルとアヴシャロムに、参加者たちはおおいに刺激された模様。

「カンパニーのレパートリーを習えたことに加えて、バレエのレッスン、コンタクト・インプロヴィゼーションなど盛りだくさんの内容で多くを吸収することができた」

「2人の作品に対する考え方が開けて、とても感銘を受けた」

などの感想が寄せられた。

一方、すでに上演した作品が、さらに発展していくケースもある。昨年、彩の国さいたま芸術劇場で自ら振り付けた『a play of a play』を上演し、大きな注目を集めた中村恩恵さんと出演者は、その成果をさらに発展させていきたいと、自らワークショップを提案。舞踊家としての自己の表現の手段を既に確立しているアーティストを対象としたインプロヴィゼーションを巡る研究などを行い、最終的にそれは、伊藤キム、平山素子も加わり、無料でのショーイングへと発展した。

こうした活動が、アーティストたちのインスピレーションとなり、新たな創造につながっていくに違いない。



インバル・ピントさん(中央)の動きに合わせて踊る参加者たち。

E 「インバル・ピント・カンパニー ダンス・ワークショップ」

【実施日】7月26日(水)～28日(金)
【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大練習室
【講師】インバル・ピント&アヴシャロム・ボラック 堀田洋一 【参加人数】25人

F 「中村恩恵と仲間たち Workshop and Showing」

Workshop
【実施日】8月15日(火)～19日(土)・22日(火)～25日(金)
【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大練習室 同劇場 中稽古場1
【講師】中村恩恵 松崎えり 佐藤知子 横田あつ子 松本大樹 伊藤拓次
【参加人数】約20名

Showing
【実施日】8月26日(土) 【会場】彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
【出演】中村恩恵 松崎えり 佐藤知子 横田あつ子 松本大樹 伊藤拓次、伊藤キム、平山素子

G 劇場を裏で支えるプロを育む「ステージラフト」

公共ホールでの自主製作公演における舞台技術スタッフの関わり方について学習し、体験することを目的としたワークショップも、今夏行われた、財団法人地域創造と財団法人埼玉県芸術文化振興財団の共同主催によるもので、全国の公立ホール・劇場で舞台技術または事業企画・制作を担当する職員が対象。舞台、照明及び音響それぞれの舞台技術に関する基礎知識や問題点についての講義やディスカッション、舞台づくりの実習など、舞台技術業務に関して実践的に学習するという内容だ。特に今年はさいたまゴールド・シアター7月中間発表公演で上演された作品『Pro-cess』を題材に行い、この公演に携わった各専門家が講師に立ったほか、最終日の総合せみ(リハーサル)には、さいたまゴールド・シアター団員も参加して協力した。参加者からは「本番形式での各舞台操作研修がとてよかった」「全国各地の同じ仕事をする人たちに出会えたことはとてもはげみになる」と好評を得た。



講師陣から機器の操作方法について説明を受ける参加者たち。

【実施日】8月8日(火)～11日(金)
【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大稽古場
【講師】井上尊昌氏(演出)、小峰リリー氏(衣裳)、安津満美子氏(美術)、岩品武顕(照明)*、市川悟(音響)*、山田潤一(舞台)*
(※:財)埼玉県芸術文化振興財団)
【参加人数】31人

「さいたまゴールド・シアター」 団員紹介

蜷川幸雄の発案により、彩の国さいたま芸術劇場で4月に誕生した「さいたまゴールド・シアター」。夏休みも明け、さらに稽古に熱の入る団員46名を順にご紹介。

団員のみなさんへの質問
1.入団の動機 2.講師陣の指導で印象に残ること 3.団の活動でどう変わった? 4.中間発表の感想

高橋 清 (たかはしきよし)さん 79歳
演技経験はないものの、見事な白い鬚のためか演技にも独特の雰囲気を出している高橋さん。団員たちからも「カシラ」の愛称で親しまれている。
1.年齢制限のないこと、健康であること、経験は問わないというので応募しました。そして返事の来るまでの心地良い緊張感。こんな気持ちになったことは今までにありません。人生最後の挑戦で、生きていてよかったと思いました。
2.先生方は一生懸命やられていて、私のようなものでも皆さんと一緒に親切に指導して下さいるのが、なによりも難しく思っています。
3.5月から週5日通学しましたが、毎日が新しく、楽しく過ごして来ました。
4.初日のカーテンコールの時、涙が溢れてきましたが、抑えることが出来ませんでした。

滝澤多江 (たきざわたえ)さん 60歳
退職後、どんな趣味にも満足できなかった滝澤さんは、演技経験は一切なかったが「さいたまゴールド・シアター」に応募。今は一つのものに向かっていく達成感で一杯。
1.義母・実母二人の人生が自分とダブリ、私にはこの先何があるのか、何が残るのかと自問する日々募集のニュースを耳にし、自分の可能性がそこに発見出来たら、こんなチャンスは二度とない!!と思ったら応募してました。
2.初めての経験ばかりで、ヴォイス・ダンス・日舞・ムーヴメント……すべてに驚きと楽しさを感じております。
3.消極的でいつも中途半端だった自分を発見。何事にも積極的になれた? ならうと努力している自分です。
4.緊張のしっばなで、全身が固まっていた。最後、お客様の手拍りでなんとも表現できない熱いものがみ上げてきて、この感動を忘れず再びそのために頑張ろうと勇気をいただきました。

関根敏博 (せきねとしひろ)さん 76歳
大学でコンピューターを教えていた関根さんは、歌舞伎や新劇、そして「蜷川さんの作品はだいたい全部観ている」ほどの芝居好きだった。とは言え観る専門で、演劇の経験は高校時代にほんの少しだけ。それが「さいたまゴールド・シアター」に出会い、とうとう演じる側に、「でも、役者を貫き通すには、生活も大変だし、強い信念が必要」と今はつくづく感じるという。それだけに「我々も冷やかし半分では駄目。プロのつもりでやらなければならぬ」と思っている。
1.芝居を後ろ側(作る側)から見たかった。
2.すべてのカリキュラムが体を動かすことに通じているので、健康を維持する意味で大変な難い。
3.自分の心身をかなり客観的に見られるようになった?
4.自分の表現力の乏しさを恥ずかしく思った。

田内一子 (たうちかづこ)さん 60歳
交通事故で痛めた足を乗り越えるために市民ミュージカルにあえて参加したという田内さん。「さいたまゴールドシアター」はまた新たな挑戦だ。
1.38年間の勤めも今年3月で退職。これから何か自分のためにやりたいと思ってた矢先に募集を見て、蜷川さんの考えに感動してチャレンジしてみました。
2.気力や体力の衰えを考慮して、私たちが高めるための苦心や遣いに敬服しています。声を通す体づくり、感情を動かせる体づくりに好奇心がわいてきます。
3.皆さんと目標に取り組み、創り上げていく喜びを味わいながら、年代の違う役に集中することにより、自分の考えを持ち、主張していかなければと、前向きに行動するようになってきました。
4.蜷川さんの私たちに壊して創り上げようとする、言葉、目つき、震える態度に自分を前に押し出されるパワーを感じました。



©山下恒徳

高田誠治郎 (たかたせいじろう)さん 75歳
かつてはコピーライターとして活躍していた高田さんは、奥様からの薦めもあり応募。「俺は怠け者だから」と言いつつ、夏休みにはシェイクスピアを紐解き、ついには短い脚本を1本書いてしまった。書いて演じて、という日も来るかもしれない。
1.プロフェッショナルな技術を持った舞台俳優の育成を目指すという劇団設立の趣旨に惹かれました。自分に舞台俳優としての適性があるかどうかを知りたかったというのが参加の動機です。
2.握手していただいた蜷川さんの手の暖かさ。やまもとさんの情熱的な指導。どの先生も熱い心で指導してくださっているのが感じられます。
3.変化? 脱皮の途中ということで、まだこれという変化はないと思います。
4.演じている自分を見ているもう一人の自分があることを感じ、それがイヤでたまらなかつた。

谷川美枝 (たにかわよしえ)さん 64歳
今夏、行われた中間発表会の初日で「何も感じず、自分は変なかなと思いましたが、今思えば、それほど(気持ち)が緊張で固まっていた」という谷川さん。ミスで「セリフを忘れたんだ」と蜷川さんに指摘され、たショックが、俄然意欲に火をつけた。以来、吹っ切れたように、演技で新しい側面を見せている。
1.「年齢を重ねたものがその個人史をベースに、身体表現によって、新しい自分に出会うことは可能ではないか」という蜷川さんの劇団創立の動機を読んで。
2.蜷川さんからは、演出家がいないと変わらないことを、井上尊昌さんからは、生きてきた人生を活かすことを教わった。ヴォイス、ムーヴメント、日舞、ダンスの先生方のプロの目、気迫が刺激的。
3.色々な方とだんだん自然に話が出来たようになった。
4.先生方、スタッフ、観に来て下さった方に感謝。幸せな時を持ち、46名での公演が新たな楽しみ光になっている。

高階富子 (たかしなしようこ)さん 70歳
高階さんの滑舌のよさとセリフ回しの上手さ、さらには本番での度胸のよさは、さすがはかつてNHKのアナウンサーとして7年間活躍したキャリアの賜物。ご主人の仕事の都合などで、その後、海外暮らしが長く、棚上げになっていた芝居への情熱が、「さいたまゴールド・シアター」の活動で解放されている様子だ。
1.十代の頃から様々な理由で中断してきた芝居をまっとう出来るかもしれない、最後のチャンスに賭けた。
2.蜷川さんの稽古で、「世界の二ナガワ」が「我々の二ナガワ」になる瞬間。松岡和子さんのシェイクスピアの講義も面白く有益だった。
3.「本当に生きている」と感じる時が、「演技をしている時」になったこと。非現実の世界が現実を超えている感覚。また、楽しいので食べるのは忘れるが、お酒はさらにおいしくなった。
4.稽古とは違う緊張感が楽しかった。本番が一番楽しいかもしれません。

柴田紘子 (しばたひろこ)さん 61歳
俳優座養成所卒業後、結婚するまで俳優として活動。35年のプランクを経て、「2度目の初めの一步」の気持ちで臨んでいるという柴田さん。
1.義父の介護など一段落し、「生きがい探し」を考えていた矢先募集を知り、思い切って高いハードルを跳ぶことにしたのです。
2.講師の方々も皆、素晴らしい。ヴォイスのやまもと先生とのレッスンで簡潔情熱的な内容は、目からウロコが落ちること度々。発声する楽しさ、実感出来つつあります。感謝。
3.歳をとる嫌悪感が薄れました。忘れたい経験(思い出)を含めて、すべてリサイクルできそう(演技に活かそう)で。心の再生工場は稼働し始めました。どんな製品が……生まれ変わってくるのでしょうか。
4.私を包んでいたラップをハラリと剥がされたよう。懐かしい……そう! この匂い、香り、照り、音の輪……の感激は演じるどころではありませんでした。



soprano
Maki Mori



alto
Marianne Beate Kielland

conductor
Masaaki Suzuki



tenor
Andreas Weller



bass
Dominik Wörner



Bach Collegium Japan

Mozart Requiem



CONTENTS

- | | |
|---|--|
| 02 NINAGAWA 千の目
蜷川実花×蜷川幸雄 | 14 PICK UP ニューイヤーコンサート |
| 06 PICK UP 彩の国シェイクスピア・シリーズ
『恋の骨折り損』『コリオレイナス』 | 15 PICK UP ピアニスト100 |
| 10 PICK UP アクラム・カーン + シディ・ラルビ・シェルカウイ
『ゼロ度 zero degrees』 | 16 EVENT INFORMATION |
| 12 PICK UP ヤン・ファーブル
『わたしは血 JE SUIS SANG』 | 17 EVENT CALENDAR |
| | 20 COMMUNICATION
“げいじゅつ”っておもしろい! |
| | 23 さいたまゴールド・シアター |